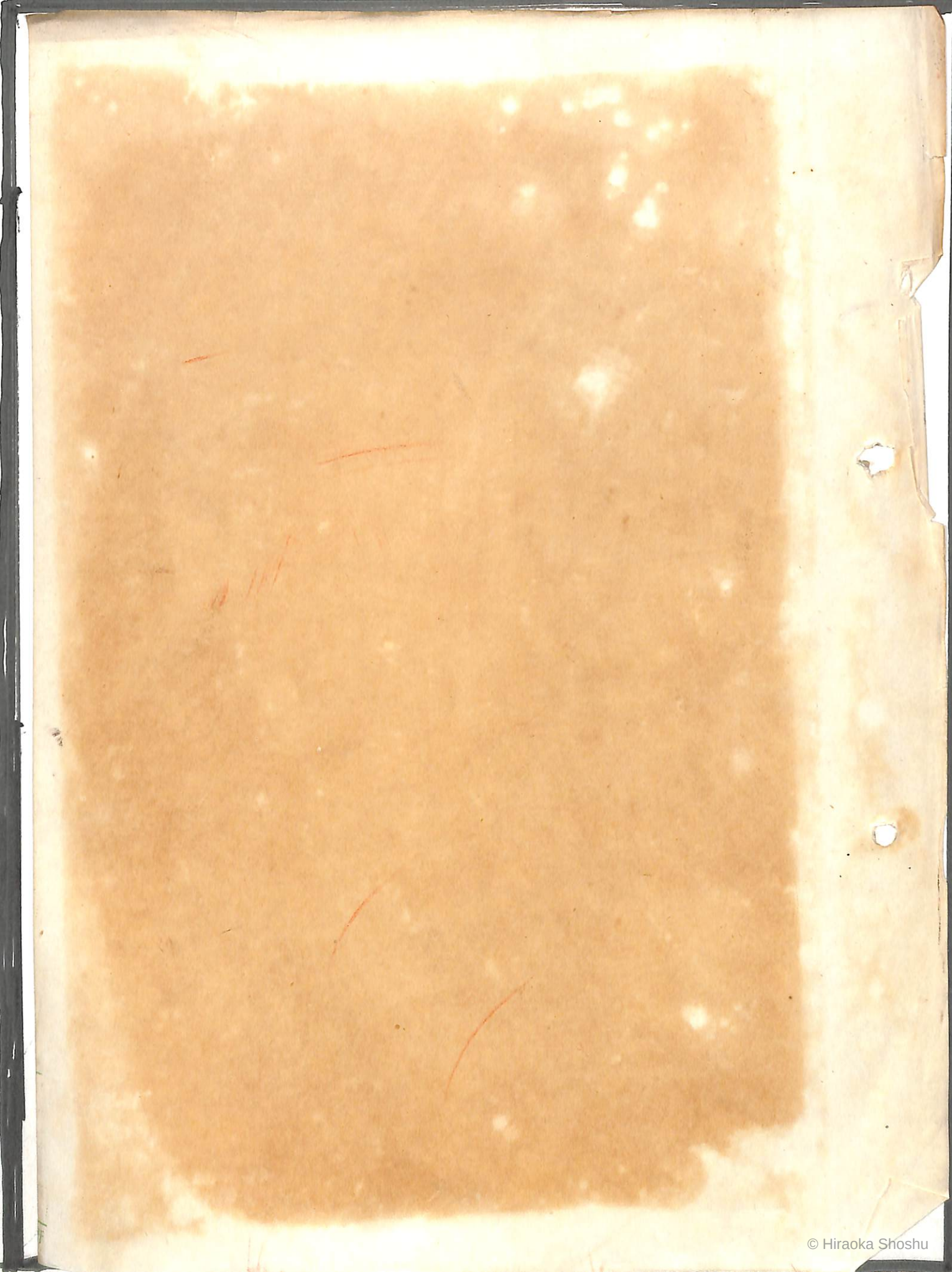


宗顯本



函

号

册

宗性上人三史料

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P /

宗顯本資料

年
月
日

昭和
年
月調

113
函
193
号
1
册

P /

(表題) 宗顯自筆

諸宗疑由悔義救

○冊子本

113
193
1

諸宗疑由悔義救
公情分
維摩會

任情作

宗顯

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

田題

後宗疑肉梅義叔

端書

正元々年法勝寺脚八構、宗顯肉公意

正□□寺脚八構、宗顯肉公意

正□□實寬宗顯肉之

正元々年維摩會講師實寬、宗顯肉之

正元々年維摩□□□(會講師)實寬、宗顯肉之

正元々年維摩會講師實寬、宗顯肉之

弘長元年寺脚梅經論匠、宗顯肉公意

弘長□□顯雲信都

同

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

P 3

34 長二年維摩會講師庚守宗顯圖之

但此本書抄出時、奥書ナシ、

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和 年 月 調

113
函
194
号
1
册

P /

(表題)

京都八講論義問題校

〇冊子本

113
194
1

京都八講論義問題校

宗題

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

P 2

仙洞靈勝講施匠記文

5
10

(年譜)

宗性上人資料集原稿

15

20

25

寶治三年

法皇御時初年
華嚴宗不考

建長元年

探玄記本二三

余宗本一卷記之

三編宗中論疏本二三
法相宗唯識論本二三

天台玄義本二三

華嚴宗不考

同三年

三編宗中論疏本六七八九十

法相宗唯識論本四五

同三年

華嚴宗不考

天台玄義本五六七

同四五六

華嚴宗不考

同七年

探玄記本四五 良性考

同八年

探玄記本六七 宗曉考

三編宗中論疏本一

法相宗唯識論本三

天台法苑珠林本六

年
月
日

昭和
年
月調

按察二品人講 自弘安十年十月

弘安十二年正月廿一日

才二里年被始行之 一日八講僧名

奉行宮内卿、一重經

本清歸還親性依禁忌
月忌云々
其禪

解

仍八講之儀也

才五六兩座 各三光被講之

宗隆法印 親筆、
兼忠少僧却 定春擬講
本運内供 定算得業

被始行之僧名 寛田 忠源

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

諸家八講海義肉題抄

建治四年後嵯峨院師八講

自二月十三日被始行 廿六日
奉行左方并經願

僧名

澄義權僧正庚伊寺

法印尊經山

執性寺

愚冥山

權大僧都執事寺

房曉寺

權律師冥譽東

宗顯東

光升寺

已講信顯寺

永海山

力三卷講師房曉

向者冥譽

力四卷講師冥譽

向者房曉

力五卷講師宗顯

向者光升

力六卷講師光升

向者宗顯

力七卷講師信顯

向者永海

P 4

年
月
日

昭和
年
月
調

第八卷

講師永源

内者・信顕

○但こ、内各ノ要文ハ略ス。

弘安三年後嵯峨院御入講

奉行左少升經頼

御入講中ノ三日任權弁口

僧名

油印山靜明

山寛田

寺

親性

寺

親兼

寺

信弁

權大僧都興顯菅

權律師東宗顯

山親隆

已講寺房瑜

無量義經

講師靜明

内者親性

一卷

講師親性

内者靜明

五卷

講師顯卷

内者親隆

六卷

講師宗顯

内者房瑜

七卷

講師親隆

内者顯卷

年
月
日

昭和

年

月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

八卷講師彦頼順

由者宗頼

○但、因冬、要文ヲ略ス。

弘安四年後嵯峨院御入講

奉行 權升經頼

由講中 奉行權磨海院 郡仲。

僧名

靜明法印

宗徳清院

親性、信升、忠海、

宗升院信部

宗頼力信部院 次升、清院

敦隆信部院清院

經田院已講

本清院建院

尊清法印院 印度院信部

公阿力信部

新院御能邸指自十日由緒進座入御、仍今季、新院御幸

無之、

十六日御参詣。

本院御幸有之、

才三日由座御聴講有之

5

10

15

20

25

今年涅槃講、美并マテ
藤次ニ被召之

初日

朝座 講師 靜朗

向者 宗懷

夕座 親性

向者 忠源

初二日

朝座 講師 信升

向者 宗顯

夕座 忠源
同親性

初三日

朝座 講師 美并

向者 親隆

夕座 宗顯

向者 信升

初四日 報端 雖觸氣出来之向、今不出仕

朝座 美并

向者 經田

年 月 日

昭和 年 月 調

P 7

(年譜)
宗性上人資料集原稿

5
10
15
20
25

夕彦、
五、
教隆
内者宗并

朝彦、
五、
經内
内者光并

結彦、
宗懷
内者靜明

但云、
内各一
要文ハ略ス

弘安五年
依神木御入洛不被行ニ

弘安五年
後嵯峨院御入講
奉行權并經賴

法印聖顯
教性
房环
信并

僧名
權大僧都宗顯
总并
光并
信雅

山内依并澄不出仕
己満範憲
定仙

年
月
日
昭和
年
月
調

初日	朝座講師聖顕	肉者執性
初二日	朝座講師信升	肉者範憲
第三日	朝座、、系升	肉者文升
第四日	朝座、、信雅	肉者尾仙
第五日	朝座、、定仙	肉者信雅
結願、、執性		肉者聖顕

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

5

10

15

20

25

34年七月後嵯峨院御入講 奉行人右少弁經頼

僧名

靜明法印

無澄義
別座

教性

愚冥法印
舟尾處

教兼、信升、

公休

忠源、

公信、

宗顯大僧都

定觀、

範馬己講

定仙、

今年十三年御佛事

十一日

尊勝陀羅尼供養有之、

十五日

新院御佛事也

於多寶院 無垢稱經并如法經御供養有之、

導師愚冥法印

年

月

日

昭和

年

月調

題名僧

法印 忠源、公信、
定親法印 光光并、

十六日 本院寺講佛事之

於八講道場心經供養有之 導師憲実法印

題名僧 御忌日衆

十七日

大宮院佛事

於八講道場 經華多羅供有之 導師勝實院僧正 二書卷

文 北面衆沙汰有之 五部大乘經供養有之 導師 憲実法印

題名僧 御人講衆

又十種供養有之 導師 憲実法印 十七日佛事 綱々 不及注之

無量義經 講師 靜明云々 由者 教性

一 卷 講師 親軍 由者 忠源

年 月 日 昭和 34 年 6 月 27 日 調

年
月
日

昭和
年
月
調

二卷	講師信升	内者今信
三卷	講師忠訴	内者敦憲
四卷	講師今信	内者信升
五卷	講師宗顯	内者定觀
六卷	講師定觀	内者宗顯
七卷	講師範憲	内者定仙
八卷	講師定仙	内者範憲
善賢經	講師敦性	内者靜明

〇但之問答ノ要文ハ略ス

(年譜)

宗性上人資料集原稿

弘安八年後嵯峨院上人講 奉行人在少升為後

僧名

靜明法印 教性、宗顯、房曉、

忠源、孝快大像都憲、定觀、

永源、自信、乾憲律師 累忠已講

無量義經 講師靜明 肉者教性

一卷 講師宗顯 肉者忠源

二局 講師房曉 肉者孝快

三局 講師忠源 肉者宗顯

四局 講師孝快 肉者房曉

五局 講師定觀 肉者永源

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5 10 15 20 25

年 月 日 昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

六 弓

講師永海

肉者定觀

七 弓

講師乾憲

肉者憲忠

八 弓

講師憲忠

肉者範憲

善賢經講師 執性

肉者靜明

〇但し、肉者ノ要又ハコレヲ略ス、

弘治九年後嵯峨院御入講

奉行入 左少升雅藤

僧名

執性法印

執善、

印實、

宗顯、

忠海、

信雅大僧都

定觀、

永海、

乾憲少僧都

憲忠已講

無量義經講師 執性

肉者印實

年 月 日

昭和 34 年 6 月 22 日 調

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

一卷

講師印度

肉者執性

二卷

講師字顯

肉者執筆

三卷

講師忠源

肉者信雅

四卷

六、信雅

肉者忠源

五卷

、定觀

肉者永源

六、

、永源

肉者定觀

七、

、範憲

肉者憲忠

八、

、憲忠

肉者範憲

○但、肉者、要文ハコレヲ略ス、

年
月
日

昭和
年
月調

弘安十年後嵯峨院御八講

奉行 右中弁為俊 興福寺依所泊不參

實内法印 執性、

執性華 治部、氣屬辭臣之處
印度御情又辭退處
執性御情之

僧名

房曉、 定觀大僧却

永淳、

承忠少僧都 宗尋已講、宰相

興福寺定觀當講

辭退之處也

無量義經講師實内

内者執性

一卷 講師執兼

内者宗顯

二卷 講師宗顯

内者執兼

三卷 講師信弁

内者永源

四卷 講師房曉

内者義忠

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)
宗性上人資料集原稿

无量義經 講師 實因 肉者 親性

一卷 講師 親兼 肉者 宗顯

二卷 講師 宗顯 肉者 親兼

三卷 講師 信弁 肉者 永源

四卷 講師 定觀 肉者 兼忠

五卷 講師 永源 肉者 信弁

六卷 講師 乾雲 肉者 宗弄

七卷 講師 兼忠 肉者 定觀

八卷 講師 宗弄 肉者 乾雲

普賢經 講師 親性 肉者 實因

○但、肉者ノ略ハ之ヲ略ス、

(年譜)

宗性上人資料集原稿

建治四年後鳥羽院御人構

自二月十八日被指行 五丁日

奉行 右中弁 雅憲

僧名

法印鼻經山 尊憲興 實岡山 親性寺 憲信山

權大僧部房珍寺 房曉寺 權少僧部 系弁寺

權律師宗顯東 已構永厚山

第三卷 講師 憲信 内者 房珍

为四卷 講師 房珍 内者 憲信

为五卷 講師 房曉 内者 宗顯

为七卷 講師 宗顯 内者 房曉

为八卷 講師 永源 内者 系弁

○但云内各ノ要又ハ略ス

(年譜)

宗性上人資料集原稿

弘安三年後鳥羽院上人構

奉行 木工頭 重經

治部卿廊經子鳥

僧名

法印 興

尊憲

山

實田

寺 親性

權少僧都 山孝快

東 庚譽

寺 孝升

寺 次升

權律師 東 宗顯

山 永源

無量義經 講師 尊憲

向者 實田

一 弓

講師 親性

向者 孝快

二 弓

講師 孝快

向者 親性

但當座三私洗尊憲沖印了
親性於京口用之了

三 弓

講師 庚譽

向者 孝升

四 卷

講師 孝升

向者 庚譽

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

五卷講師光升

肉着兼源

六卷講師原顯

肉着經山

七卷講師永源

肉着光升

八卷講師經山

肉着原顯

普賢講師實田

肉着親性

○但、肉着、要又、略ス、

弘安四年後鳥羽院御八講

奉行九條左内權佐定光

僧名

宗懷法印

蘭清

○親性、

實田、

忠源

蘭清

蘭清

兼并大僧都

實養少僧都

定親少僧都光升、

永源、

經山已講

本情辞退

兼範法印

親兼、

依禁忌三月過

年

月

日

昭和

年

月調

無量義經

講師 宗像

肉者 寛田

一弓

講師

親性

肉者 忠源

二弓

講師

忠源

肉者 親性

三弓

講師

系升

肉者 寛誉

四弓

講師

寛誉

肉者 系升

五弓

講師

宗顯

肉者 永源

六弓

講師

光升

肉者 経田

七弓

講師

永源

肉者 宗顯

八弓

講師

経田

肉者 光升

普賢經

講師

庚田

○但し肉者一弓又ハ略ス。

(年譜)

宗性上人資料集原稿

弘安五年依神本師入洛不被行之

弘安六年後為羽院師八攝

奉行在任并雅憲

僧名

法印聖顯

顯養

親性

房珍

信并

大僧都序顯

并并

少僧都更養

律師庚俊

已攝定仙

初日

朝座講師聖顯

肉着親性

夕座、親性

肉着聖顯

初日

朝座、房珍

肉着顯養

夕座、信并

肉着宗顯

初日

朝座、宗顯

肉着信并

夕座、并并

肉着庚養

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和

年

月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

初四日

朝座、実誉

肉着总弁

夕座、実俊

肉着定仙

初五日

朝座、定仙

肉着実俊

夕座、顕誉

肉着房珍

〇但し肉着1要文は之より略ス

34年七月後鳥羽院御入講

僧名

尊賢法印

聖顯、

顕誉、

总弁大僧都

友弁、

永源少僧都

房珍律師

経円

行兼

兼忠

奉行入

左少弁 実俊

弘安八年後鳥羽院御入講

奉行 左中弁 信捕

年
月
日

昭和

年

月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

僧名

庚巖法印

聖顯

尊嚴法印 而世辭退
其前情云云

庚巖、

親兼、

慈弁

信雅大僧都

隆禪律師

房勝已撰

經山少僧都

永源僧却本情、但後嵯峨院中人撰俄蘭清沙汰之間、
所起少僧兼行簡之條、自壬午停止之、仍被止永源祇
召經山了。

弘安九年後鳥羽院中人撰

僧名

宗澄法印

庚巖、

房珍、

房曉、

寅昭、

慈弁、

信弁、

良快律師

兼忠、

田伊已撰

弘安十年後鳥羽院中人撰

僧名

庚巖法印

房珍、

慈弁、

年 月 日

昭和 年 月 日

(年譜)

宗性上人資料集原稿

弘安十一年後為羽腹師八講

奉行 左少弁 仲兼

自當年付御治世僧名本座師計也

僧名

宗澄法印

聖顯、房珍、宗顯、房曉

乾憲、德都

弁真、經円、兼信律師

房珍勝已講

無量義經 講師 定澄

向者聖顯

一 弓 講師 房珍

向者實顯

二 弓 講師 宗顯

向者房珍

三 弓 講師 房曉

向者乾憲

四 弓 講師 乾憲

向者房曉

年 月 日

昭和

年

月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

五弓講師升真

肉者兼信

六弓講師經四

肉者房勝

七弓講師兼信

肉者升真

八弓講師房勝

肉者經四

普賢經講師聖顯

肉者原澄

○但心、肉者、聖文ハナシ

寂勝金剛院師八講

三月七日

奉行 民部卿權大輔為忠

一系殿師情

34年四年僧名

字懷清印

実寛、

聖顯、

房珍、

忠源、

宗顯、

房信、

經四、

年
月
日

昭和
年
月調

一卷講師宗懷

肉者実寛

二、講師実寛

肉者宗懷

三、講師聖顯

肉者房珍

四、講師房珍

肉者聖顯

五、講師忠源

肉者宗顯

六、講師宗顯

肉者忠源

七、講師房信

肉者經山

八、講師經山

肉者房信

○但し、肉者一、要文略す。

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

弘安七年寂勝金剛陀伽人構

僧名

靜明法印

尊憲、

顯峯、房珍、

并志弁、

宗顯大僧都

永存、

憲信律師

一巻

講師靜明

内者尊憲

二巻、

尊憲

内者靜明

三巻、

顯峯

内者房珍

四巻、

房珍

内者顯峯

五巻、

志弁

内者宗顯

六巻、

宗顯

内者志弁

但此内各、要入略入、

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

年
月
日

昭和
年
月
調

弘安八年寂勝金剛院上人講

僧名

靜明法印

実譽、

顯譽、

房珍、

宗顯、

永源大僧都

房勝已講

良寛得業

一卷講師靜明

由者実譽

二弓、実譽

由者靜明

三弓、顯譽

由者房珍

四弓、房珍

由者顯譽

五弓、宗顯

由者永源

六弓、永源

由者宗顯

七弓、房勝

由者良寛

八弓、良寛

由者房勝

〇但し問答、要スハコトヲ略ス

年 月 日

昭和 年 月 調

(年 譜)

宗性上人資料集原稿

弘安九年骨廩勝金剛陀印人講

僧名

源能法印

庚萱、

房珍、宗顯、

光升、

永源大僧都

乾憲少僧都

定覚律師

一卷

講師源能

向者庚萱

二卷

、庚萱

向者源能

三、

、房珍

向者宗顯

四、

、宗顯

向者房珍

五、

、光升

向者永源

六、

、永源

向者光升

七、

、乾憲

向者定覚

八、

、定覚

向者乾憲

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

弘治十年寂勝金剛院御入講

寅峯、

宗澄法印

寅田、

親性、

僧名

宗顯、

房岐、

定觀大僧都

永源、

但、寺所衆徒押苗之間辞申了。

今年奉行宮内卿重經

今年、於峯殿被御行云云

弘治十一年寂勝金剛院御入講

奉行 宮内卿重經

僧名

宗澄法印

寅田、

顯峯、

親性、

宗顯、

定觀大僧都

永源、

乾雲少僧都

年
月
日

昭和
年
月調

年
月
日

昭和
年
月
調

一	卷	講師宗澄	肉者親性
二	弓	講師實田	肉者顯峯
三	弓	、、顯峯	肉者實田
四	局	、、親性	肉者宗澄
五	弓	、、宗顯	肉者定觀
六	弓	、、定親	肉者宗顯
七	弓	、、永源	肉者範雲
八	弓	、、範雲	肉者永源

。但、肉者一平又ハコレヲ略ス、

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

長講堂中人講

自三月九日
被始行之

五午日

於上長講堂被行之 結願日

本館

佛事在之

南白以下着座

弘安二年僧名

法印靜明

兼範

憲実

權大僧都信升

忠源

權少僧都高升

範尊

權律師宗顯

親隆

已講信雅

第五卷

講師範尊

肉者親隆

第六卷

講師宗顯

肉者信雅

第七卷

講師親隆

肉者範尊

第八卷

講師信雅

肉者宗顯

年

月

日

昭和

年

月調

善賢經

講師兼範

向者靜明

〇但二内卷ノ要文ハ略ス、

同三年僧名

靜明

実宏

実惠

尊清

実実印持退之處

信升

忠源

大僧印
房珍

律師

定觀

実実印持退之處

已講
房喻

兼信得業

同四年僧名

靜明法印

宗懷、

尊惠、

実実寛、

實内、

宗顯少僧都

光升、

信顯、

觀隆、

當講
經内已講

奉行在升忠世

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

無量義經講師

靜明

肉着宗懷

一卷 講師

尊憲

肉着實田

二卷

實寬

肉着光升

三卷

實田

肉着尊憲

四卷

宗顯

肉着親隆

五卷

光升

肉着實寬

六卷

信顯

肉着絰田

七卷

親隆

肉着宗顯

八卷

絰田

肉着信顯

同五年依神木師入洛師八講不被行之

(年譜)

宗性上人資料集原稿

同大伴僧名

聖顯法印

親性、

房珍、

印寛、

信升、

宗顯大僧都

系升、
信顯、

定快律師

定仙已構

奉行人

左少升為方

初日

朝座、
聖顯

向者親性

夕座、
房珍

向者印寛

第二日

朝座、
印寛

向者房珍

夕座、
信升

向者宗顯

第三日

朝座、
宗顯

向者信升

夕座、
系升

向者信顯

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

第四日 朝座、光升 肉者慈升

但、同答ノ要又ハ略ス、

同七年長講堂僧名 奉行權弁俊定

初日才四日才五日本院御幸有之

結願日 着座 公卿 南白土御内大納言

大炊御内大納言 西園寺大納言

四条中納言 吉田中納言

澄義

澄義

宗澄清印

静明、

實嚴、 尊憲、

忠源、

公信、

宗顯大僧都 信雅

定觀、

範康已構

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

113
國
194
号
1
冊

P39

本請 康實法印 歸還 關請・宗澄法印

(年譜) 宗性上人資料集原稿

無量義經 講師宗澄 肉者尊憲

一卷 講師實岩 肉者宗顯

二卷 講師尊憲 肉者宗澄

三卷 講師忠源 肉者信雅

四卷 講師公信 肉者靜明

五卷 講師宗顯 肉者實岩

六卷 講師信雅 肉者忠源

七卷 講師定親 肉者範憲

八卷 講師範憲 肉者定觀

普賢經 講師靜明 肉者公信

年 月 日 昭和 年 月 調

0但、肉答ノ要又ハ略ス、

弘安八年 長講堂師人講

之條殿長講堂被新造之間

自當年於之殿被行之

奉行人在中并俊定

靜明法印 庚辰、 庚辰、

僧名

教兼、 宗顯、

庚辰、 忠源、 愚史法印

辞退之處也

公信、

乾恩律師

定仙已講

無量義經 講師靜明 向者庚辰

一卷 講師庚辰 向者靜明

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(年 譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

二 弓

講師親筆

肉者実昭

三 弓

講師宗頭

肉者実昭

四 弓

、 、 実昭

肉者親筆

五 弓

、 、 忠源

肉者今信

六 弓

、 、 今信

肉者忠源

七 弓

、 、 乾憲

肉者定仙

八 弓

、 、 定仙

肉者乾憲

普賢經

講師實嵐

肉者宗頭

○但、同卷ノ要文ハ略ス。

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

弘安九年 長講堂上人講

佛講中大條殿中前五日佛親南

力三日新墮佛幸

奉行在少升雅藤

宗澄法印 印實、宗顯、房曉、

僧名

慈升、忠源、永源大僧都 乾雲少僧都

經山、山伊已講

無量義經 講師宗澄 肉者印實

一卷、宗顯 肉者房曉

二、房曉 肉者宗顯

三、慈升 肉者忠源

四卷、忠源 肉者慈升

年 月 日 昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

五卷

、永源

肉者乾運

六卷

、乾運

肉者永源

七卷

、經四

肉者四伊

八卷

、四伊

肉者經四

普賢經

講師印廣

肉者宗澄

。但、同答、要文ハコレヲ略ス、

弘安十年長講堂即人講

奉行左衛門權佐經親

平中納言時繼息

僧名

宗澄法印

實四、

房珣、

宗顯、

信升、

定觀大僧都

永源、

忠源法印
健慈

乾運僧都

兼信律師

房勝已講

年

月

日

昭和

年

月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

但兩寺依所詔訟衆徒猶押留之間、宗顯 乾憲 兼信

辭退中

關清

弘安十一年長構堂師入講

僧名

宗澄法印 實田、宗顯、慈升、信顯大僧都
永源、定覺少僧都 乾憲、宣升已構信升法印弟子

月伊、

無量義經 講師宗澄 肉着宗顯

一卷 講師宗顯 肉着宗澄

二卷 講師慈升 肉着實田

三可 信顯 肉着永源

年 月 日 昭和 年 月 調

113

194

号
1
册

P 45

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

四馬

、永源

肉着信顯

五馬

、定覺

肉着宣升

六馬

、範憲

肉着田伊

七馬

、宣升

肉着定覺

八馬

、田伊

肉着範憲

普賢經

、廣田

肉着義升

〇但し肉着一、要文ハコナ略ス。

年
月
日

昭和
年
月
調

一音院即八講

每月三月廿八日
九條殿即清

奉行民部卿大輔賴敏

九條殿仰候人 上總前司公民 由所近辺宿所有之

弘安六年

僧名

信弁法印

宗頭大僧都

奥峯寺僧都 經卷……

定觀……

房瑜律師 兼墨己講
代官

定仙己講

尊弁得業

初座調誦經供養有之

初座講師信弁

因者宗頭

初二座講師宗頭

因者信弁

初三座講師奥峯

因者定觀

初四座講師經卷

因者房瑜

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

力五座

講師定観

肉着庚峯

力六座

講師房珮

肉着経峯

力七座

講師定仙

肉着尊升

力八座

講師尊升

肉着定仙

○但、肉着、要文、之、略ス

弘治七年 一音院

静明法印

宗顕太僧都

光弁、

定観、

僧名

永源、

乾憲已講

尊升得業

朝日、

一卷講師静明

肉着宗顕

二司、宗顕

肉着静明

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

三弓、光升

肉者乾園

四弓、定觀

肉者尊升

五弓、永源

肉者朝四

六弓、乾園

肉者光升

七弓、尊升

肉者永源

八弓、朝四

肉者定觀

○但、肉者一、要、又、其、略、ス、

後高倉院上人講

五月十三四兩日於北白河御前被介之

自弘安七年

仙洞御請

自當年被成二日了

元弘一日十座

御布施今一重被副之

为二福結座勤之

心經供養有之

奉行人

右中并各才

年 月 日

昭和 年 月 調

弘安七年

僧名

靜明法印

庚辰、

寅四、

親性、

孝快大僧都

庚辰、

宗顯、

光升、

經四律師

範愚已講

初日

行香有之

無量義經講師靜明

向者親性

一卷、

寅四

向者宗顯

二、

親性

向者靜明

三、

孝快

向者光升

四、

寅辰

向者寅辰

初日

御幸有之

着座念

左大臣殿

大條殿

右大臣殿

近衛殿

左持殿

二條中納言

權中納言

經長

年
月
日

昭和
年
月
調

5

10

15

20

25

五卷 講師 宗顯

肉者 實田

六、

光升

肉者 孝快

七、

經田

肉者 範屬

八、

範屬

肉者 經田

善賢經、實嚴

肉者 實嚴

行香在之

の但し、肉者ノ要文ハコレヲ略ス。

同八年僧名

自今年五月十四日一日御八講被行之

奉行 兵部権少輔通俊

御布施 二重二裏 一十文

実養法印

親性法印

宗顯法印

房曉法印

孝快大僧都

光升、

經田少僧都

兼忠律師

行兼已講

尊運法印

薛遠之庵被召之。

年 月 日

昭和

年

月 調

愚忠已構

初座師經供養導師寅蒼達參之間親性清印勤之了
寅蒼力三座講師勤之了

無量義經 講師 親性 向者孝快

一卷 寅蒼 向者經田

二卷 宗顯 向者兼忠

三卷 房曉 向者行兼

四卷 孝快 向者親性

五卷 光升 向者憲忠

六卷 經田 向者寅蒼

七卷 兼忠 向者宗顯

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

備前守房俊略次

人司、行兼 由若房俊

普賢經、愚忠 由若玄弁

御調誦一通追参之間、被副結座了。

口祖、問答、要了、了略ス。

弘安九年、後高倉院御入構 僧名

宗澄法印 實田、実譽、房俊、

光弁、信雅大僧都 房瑜 定快律師 兼忠、

奉行入 兵部權少輔通俊 愚忠已構

年
月
日

昭和
年
月
調

弘安十年後高倉院上人構

僧名

定澄法印

實田、

信升、

房曉、

兼升、

永源大僧都

經田

定快僧都

兼忠、

足昇已構

奉行同前

弘安十一年後高倉院上人構

僧名

定澄法印

實田、

信升、

房曉、

兼升、

定快僧都

經田、

兼忠、

憲忠律師

房曉勝已構

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

弘誓院師人構

毎年五月廿日
被行之

奉行

土佐前司忠義

宿所
九條

弘安十年僧名

實田法印

新

宗顯、

信升

被止本清房勝
被止了

房曉、

定觀大僧都

定寛僧都

并清僧正代衆信
辭退之間、同代進

房勝已構

乾憲辭退
闕請之

継尊得業

興福寺訴訟之間、

乾憲、

衆信、辭退

而継尊一人出仕充不審也

今年法相宗不出之間、出題被止之面々任意疑也了

一卷

講師實田

向者信升

肉題任例實田法印經論義并天台花嚴分注出之、別紙ニ注之

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

紐而不用之

一卷講師實田 由者信升

二、宗頭 由者房曉

三、信升 由者實田

四、房曉 由者宗頭

五、定親觀 由者定覺

六、定覺 由者定觀

七、房勝 由者經尊

八、經尊 由者房勝

○但、由者一要之略ス、

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

113

194

冊

P 56

正應元年

34 誓願寺人講僧名

實田法印

定顯法印

房曉法印

乾憲第大僧都

定觀

朝山律師

勝願

房勝已講

繼尊得業

奉行民部權大輔為德

一巻講師實田

凶者房曉

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年
月
日

昭和
年
月調

外記八講

五月廿日行之

34安四年僧名

卿

靜成法印

房順法印代

中納言

實、初

接摩
實惠、

大納言

聖顯頭

民部卿
實深、

宗顯力僧都初

宰相

房瑜律師

中納言

經田宅講 三位法印實代

興、親性
左衛門督法印

可出仕之由申之由、初任講師實寬勤之

但、中納言靜成出仕之由、無力、三言講師勤了、

一卷講師實寬

由者實惠

二卷講師實惠

由者實寬

三、講師靜成

由者聖顯

57.

年
月
日

昭和
年
月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5 10 15 20 25

四、講師聖顯 内者靜成

五、 庚深 内者宗顯

六、 宗顯 内者庚深

七、 房瑜 内者經田

八、 經田 内者房瑜

○但、内者要文ハ略ス

又永七年久我人講 五月廿日被行之

僧名

法印範盛山 房判寺 實田山 聖顯東 權大僧都源能山

權少僧都兼管興 權律師尊清興 大法師宗顯東

第七卷 講師尊清 内者宗顯

第八卷 講師宗顯 内者尊清

年 月 日 昭和 年 月 調

5

10

15

20

25

同九年久我入講

僧名

法印範盛山

義通興

定澄山

房洲民部卿法印

實嚴大納言法印

聖顯東

權大僧都尊清興

大法師宗顯東

力七卷

講師尊清

由者宗顯

第八卷講師宗顯

由者尊清

○但之問答ノ要又ハ略ス

建治三年

久我入講

僧名

法印尊經

房順

定田

實田

聖顯

權律師房曉

已講永源

大法師宗顯

力七卷 講師永源

由者宗顯

年 月 日

昭和 年 月 調

第一人卷 講師宗顯 内者永源

○但、内各ノ要又ハ略ス

同二年 久我ハ構

僧名

法印定宗 聖尊 宗澄 房判 権少僧都房珠
権律師孝快 已構 庚誉 大律師宗顯

第二卷 講師孝快 内者宗顯

第七卷 講師庚誉 内者房珠

第八卷 講師宗顯 内者孝快

○但、内各ノ要又ハ略ス

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

同三年 久我人構

僧名

法印定宗

靜明

房判

聖顯

權大僧都房珍

親善

已構字顯

阿闍梨經真

第五司

滿師房珍

由若字顯

力七司

滿師字顯

由若房珍

○但し、由若、聖、久、略ス、

弘安元年久我人構

僧名

奉行土佐前司

法印定宗

靜明

定山

聖顯

權大僧都房曉

權大僧都順口

權律師字顯

已構定寛

年
月
日

昭和
34
年
6
28
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

力口卷^(三) 5

講師定因

肉者聖顯

力四弓

講師聖顯

肉者定因

力五卷

講師房曉

肉者顯蒼

力六弓

講師顯蒼

肉者房曉

第七弓

講師宗顯

肉者定寬

力八弓

講師定寬

肉者宗顯

○但、向答、要文、略ス、

弘安二年久我八講

奉行土佐前司

僧名

靜明法印

實因、

聖顯

尊清、

親兼法印

定顯權律師

永源已講

經真已講

年
月
日

昭和
年
月
調

五卷 講師 親華

肉者 永源 (年譜)

15

20

25

四卷 講師 尊清

肉者 廣山

三卷 講師 宗顯

肉者 經真

七卷 講師 永源

肉者 親華

八卷 講師 經真

肉者 宗顯

の但し、肉者、要入略入。

弘安三年 久我八構

僧名

今年八宝勝講参勤之間、性曉得業、近代官了。

山 廣月法印

顯孝大僧都

寺 房瑜

東 廣譽権方僧都

山 真雅律師

寺 房信已講

東

性曉得業

東

定快得業

七卷 講師 性曉

肉者 定快

八卷 講師 定快

肉者 性曉

年 月 日

昭和 年 月 日

弘治四年 久我八幡僧名 奉行 式部大夫

定澄法印 源能、實惠、

親性、順養大僧都 宗顯少僧都 寺 寅俊律師

定快得業

四弓、親性 由者宗顯

之弓、宗顯 肉者親性

弘治五年 性曉得業 勤仕之 〇但乙内冬、要入ハ略ス。

弘治六年僧名

宗澄法印—聖顯、宗顯大僧都、寅峯少僧都

寅俊律師 定仙已講—兼信得業 今口ハ尊清法印也

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

但、進代官房珍法印之處、不被用之、仍留日蓮教之間、一旦闕了、
仍今月七日、口定仙已構重役了、

一、講師 宗澄 由者聖顯

二、講師 聖顯 由者定仙

三、口 口 由者実後

○但、肉考、要文、こころ略す、

奉行式部左夫

(弘安七年)

久我八講

僧名

宗澄法印 聖顯 宗顯大僧都 信雅、

定覚律師 隆禪、 存為阿彌兼、

今一口ハ、興福寺実儀律師、俄辞退之間、仕在亭雖被清

口、已講又以辞退仍一口闕了、所作次第如去年

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

10

15

20

25

一卷

律師宗澄

由者要顯

二卷

、、要顯

由者宗澄

三卷

、、宗顯

由者信雅

四、

、、信雅

由者宗顯

五、

、、定覚

由者隆禪

六、

、、隆禪

由者厚為

七卷以下人退出之間不及聽聞、仍不記之

當宗モ念々出来之時、

一二藩怨鬼引之、

當年即子息

中納言之間有之、但一二藩布施以前、退出之間、四五藩取之了

。但二、向答、要之、略之、

年
月
日

昭和
年
月
調

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

弘治八年久我八講

僧名 實嚴法印

聖顯、

實卷、

房珍、 宗顯、 房勝見講

興福寺顯卷法印情定之處、彼寺開東下回之上、諸事

、實卷之許持木之間、無左右出仕云、仍及此與之決了、

一卷

講師實嚴

由者聖顯

二卷

、聖顯

由者實嚴

三、

、實卷

由者房珍

四、

、房珍

由者實卷

五、

、宗顯

由者房勝

六、

、房勝

□

□

年

月

日

昭和

年

月調

P 68

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

弘安九年

久我八講

僧名

源能法印

聖顯、

房珍、

顯養、

信雅大僧都

房瑜、

公曉大法師

源為阿、

弘安十年

久我八講

僧名

〇年者華嚴字分不參也

弘安十年四月廿日改元

正應元年久我八講

僧 〇

聖顯法印

顯養、

親兼、

宗顯、

房瑜大僧都

定覺少僧都

實俊律師

徹顯得業

年 月 日

昭和 年 月 調

P69

一卷

講師 聖顯

向者親兼

當寺布施等分三結

一結 四結云云

施義等皆常物也

仍略之

池大納言八溝

三月二日、於八條室町阿弥陀堂行之

施主

三人内

久我大將殿 母儀禪尼

二口沙汰云云

奉行 尾張前司

宿所一條口口小路

弘安六年僧名

聖顯法印

房珍

宗顯大僧都

實俊律師

初座經供卷 洞篇有之

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P70

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

一卷

講師聖顯

由若房珍、

二司

、房珍

由若聖顯

三司

、聖顯

由若^実俊

四、

、実俊

由若宇顯

五司

、聖顯

由若房珍

六司

、房珍

由若聖顯

七司

、聖顯

由若実俊

八司

、実俊

由若宇顯

○但二司管、要又ハ略ス、

年
月
日

昭和
年
月調

P 170

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

弘安七年僧名

聖顯法印

房珍、宰相

孝快、大氣、大僧都

宗顯

因用等面々常事也

弘安八年

僧名

靜成法印

聖顯、

房珍、

宗顯、

一三、三略之

四卷、一宗顯

向者房珍

〇但、内容、要文ヲ略ス、

弘安元年 北山殿御人講

自六月之日被行之、

僧名大宮女院御也、計

年
月
日

昭和
年
月
調

5
10
15
20
25

力二三齋之間、付能親被下結座

僧名 法印尊經 廣田 尊清 親性

大僧都定縁 權律師字顯 定觀 當權房瑜

力五卷 講師字顯 田者房瑜

第七卷 講師房瑜 田者字顯

○但、田者、字ハコレヲ略ス。

弘安二年北山殿御入講 恒例日被行之。

奉行 兵部太輔經有

宗澄法印 下結座 實田、 房曉大僧都 弟并權少僧都

僧名 光并權少僧都 宗顯權律師 信顯、、 經真己講 當權

P 71

年 月 日 昭和 年 月 調

113

194

号

1

册

P 1/2

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

本清 辞退

宗徳

寛寛

關清

寛田 光升

四卷講師 光升

同者 宗顯

五卷講師

宗顯

同者 光升

○但、同卷、要文ハコレヲ略ス

弘安三年

靜明

尊愚

寛田

忠源

庚徳

孝伏

庚善

經善

僧名

但、靜明

庚徳 辞退申了。

廟情 靜明之處

愚雅律師

庚徳之處

尊清法印被召了。

P 73

(年譜)

宗性上人資料集原稿

弘安四年北山殿御八講僧名

奉行 木工頼重經

靜明法印

宗懷、

親性、

雲実、

忠源、

為并大僧都

字顯力僧都

經田已講

今年相堂十三年之間、御八講被衣四日、

結座講師 雲実法印

五部大衆經并 三尺皆金色阿弥陀一軀造立、結座、

被供養之、

導師布施 被物三十重、生衣二領自庫中被出之、

下井ノ藤絹足 17夕百兩匁 二、横皮懸打枝、

皆永生念珠一連 圓日邊枝之、銚色若束、余人布施、等分被物三重

數果物一、今年被制分

一卷 講師 靜明

同者 宗懷

同題并、此外每年御布施之、

年 月 日

昭和 年 月 調

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

二

、、字懷

由者靜明

三

、、親性

由者憲実

四

、、忠源

由者慈升

五

、、慈升

由者忠源

六

、、字顯

由者經山

七

、、經山

由者字顯

八

、、憲実

由者親性

力三、重難無之

結願曰

新院由幸有之、本院自初日由幸

〇但、由幸ノ要又ハコソ略ス、

年
月
日

昭和
年
月調

P 1/3

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5 10 15 20 25

弘治五年、神木御入洛之間、不被行之、

自今年又如本文七兩日被行之、

弘治六年北山殿御入講 奉行 左中并經賴

本院自初日御聽聞、

僧名

親性諸印

信升、

字顯大僧都、

總升、

定觀、

定快律師

乾憲已講

定仙、

山内、依所法不考之、

一、講師親性

向者字顯

二、講師字顯

向者親性

三、講師總升

向者乾憲

四、講師定觀

向者定仙

五、講師定快

向者信升

年 月 日 昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

六、講師範屬 肉着弟弁

七、講師定仙 肉着定觀

八、講師偉弁 肉着定快
○但、肉着、要文略不

奉行右大弁經藏

弘治七年 北山殿

僧名 靜明法印 尊屬、教性、弟弁、
忠海、實譽大僧都、定觀、範屬已講

奉行 勘解由次官信經 大藏卿經業子息

同八年 北山殿僧名

靜明法印 教性、印實、宗顯、
定觀大僧都 房前少僧都、實勝待通之處 範屬律師
實忠已講 當講

年 月 日 昭和 年 月 調

P 717

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

一卷

講師靜明

由者親性

二、

、、印寛

由者定観

三卷

講師宗顕

由者房瑜

四卷

、、定観

由者印寛

五卷

、、房瑜

由者宗顕

○但、内容ノ要スハ略ス、

今年本院毎日聴聞有之、

弘安九年北山殿中ハ講

僧名

親性法印

宗顕、、

总弁、

定観大僧都

永原、、

乾憲少僧都

兼忠律師

定尋已講

奉行勘解由次官信經

本情内忠源法印辞退替兼忠被召之、

年
月
日

昭和
年
月調

P 178

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

結座即經供養導師 定觀大僧都

一卷講師親性 由者宗顯

二卷講師宗顯 由者親性

三卷、、慈升 由者永源

四卷、、永源 由者慈升

五卷、、乾雲 由者宗字尋

○但、由卷一更又、之ヲ略ス、

弘安十年 北山殿即八講

僧名

實田 雲信 歸退 定觀 房瑜

永海 乾雲 定快 房勝

奉行同

正應元年 北山殿即八講 僧 〇以下欄筆

年 月 日

昭和 年 月 調

建治三年勸修寺西廂八講

自八月一日被施行之

僧名

法印靜明山

定田寺

聖顯東

權大僧都教華寺

權少僧都慈升

宗口法印代

權律師

庚寅清印代

印實興

實譽東

當講字顯東

第七卷

講師慈升

因者字顯

力人司

講師字顯

因者

〇但、内卷ノ要スハコレヲ略ス

弘安元年勸修寺西廂八講

僧名

法印靜明

實田

大僧都定縁

少僧都慈升

權律師宗顯

定觀

光升

大律師定快

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P 80

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5
10
15
20
25

第七卷 講師 宗性

由者 宗顯

第八卷 講師 宗顯

由者 宗升

○但こ内音ノ要文ハコレヲ略ス

淨土寺 八講

八月十九日被行之

安嘉内院 文院

禪定仙院

為嚴親太相國被修之

弘安元年僧名

宗顯大僧都

隆禪律師

再為阿闍梨

靜明弟子

為依氏息

宗深阿、

実深法印 代官

一卷

講師 宗顯

由者 隆禪律師

二卷

講師 隆禪

由者 康深法印

三卷

講師 宗深

由者 宗深

年 月 日

昭和

年

月 調

113 國

184 号

1 册

P 81

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

四馬講師宗深

由著源為

五馬講師宗顯

由著隆祥

六馬講師隆祥

由著宗顯

○但、由著一書又ハ略ス。

弘安八年淨土寺ハ講

僧名

宗顯法師

實照、

隆祥律師

宗深阿闍梨

一卷講師宗顯

由著隆祥

二卷、、實照

由著宗深

三卷、、隆祥

由著宗顯

四卷、、實深

由著實照

年 月 日

昭和

年

月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

五卷

、一 字 顯

由若 隆 祥

六卷

、一 實 昭

由若 厚 深

七卷

、一 隆 祥

由若 字 顯

八卷

、一 字 深

由若 實 昭

○但し、由若、一、要又、略又、

弘安九年淨土寺八講

僧名

字 顯 法 印

實 昭

房 勝 已 講

隆 祥 代 之

字 深 阿

一卷

講 師

字 顯

由若 房 勝

二、

庚 昭

由若 字 深

自今年ハ九條殿様君御方ハ
相傳旨即施主云云

年

月

日

昭和

年

月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

三、房勝

肉者字顯

四、字深

肉者實昭

五、字顯

肉者房勝

六、實昭

肉者字深

七、房勝

肉者字顯

八、字深

肉者實昭

〇但し、肉者、要る略す

弘安十年洋土寺八講

僧名

字顯法印、又并、

隆禪律師

實遍阿闍梨

字深法印

一卷

講師字顯

肉者隆禪

年

月

日

昭和

年

月調

()

、
、
炎并

肉者實滿

111

隆祥

由者字顯

112

寒痛

肉者支并

五、

字題

由者隆祥

ス

、
、
尖并

問者奚端

七、

隆、
隆禪

由着宗顯

八

、
、
実満

肉者芝并

○但、問答、要文、略ス。

干鑄宰相

爲世
人憐

每年八月廿日行之

初座廟經供養有之。

弘安十年僧名

宗澄法印 永源像

宗顯、

房曉

良憲得業
實聰得業代

P 84

年
月
日

昭和 年 月 調

P 85

一卷

講師 宗澄

由者 房曉

二、

、、房曉

由者 宗澄

三、

、、宗顯

由者 良憲

四、

、、良憲

由者 宗顯

五、

、、宗澄

由者 宗顯

六、

、、宗顯

由者 宗澄

七、

、、房曉

由者 良憲

八、

、、良憲

由者 房曉

○但、問答ノ要又ハコレヲ略ス、

文永七年西園寺八講

八月廿八日

僧名

法印玄雅

宗懷

兼範

實寛

權大僧都宗懷

權少僧都覺雅

大法師

宗顯

經卷

宗性上人資料集原稿

5
10
15
20
25

第六卷 講師 宗顯 向者 經卷

第七卷 講師 經卷 向者 宗顯

但、内卷ノ要ニハ略ス

目人年 西園寺ハ講

僧名 法印玄雅 宗懷 兼範 實寛
権大僧都 實寛 宗顯 實寛
大法師 宗顯 實寛
以範屬

第四卷 講師 實寛

第六卷 講師 宗顯

但、内卷ノ要ニハ略ス

同九年 西園寺ハ講

僧名 玄雅 兼範 實寛 兼卷 實雅 實卷
宗顯

年 月 日
昭和 年 月 調

P 87

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5
10
15
20
25

第六卷

講師 庚菴

由者 字 顯

第七卷

講師 字 顯

由者 庚菴

○但、同卷ノ要文ハコレヲ略ス、

同十年

西園寺ハ講

僧名

義通

玄雅

義範

實實

顯菴

逆雅

字 顯

房雅

第六卷

講師 字 顯

由者 房雅

第七卷

講師 房雅

由者 字 顯

○但、同卷ノ要文ハコレヲ略ス、

建治二年

僧名

義通

玄雅

義範

實實

行實

顯菴

定縁

實實

年
月
日

昭和
年
月
調

建治三年西園寺八講

僧名

法印靜明山

憲源山

實嚴山

憲実山

權大僧都親兼寺

定家東

當講字顯東

已講永源山

與福弁依所治止公請已下出仕仍北享衆勤之

東大寺ハ依無□□勤仕之

俄請事到來之間當日土洛仍初日不及出仕結日出仕

憲実法印モ初日不出仕結日出仕仍彼法印与問答了

第五弓 講師憲実

内者宗顯

第六弓 講師宗顯

内者憲実

○但此内者ハ要又ハコレヲ略ス

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

P 89

弘安元年西園寺八講

奉行 美作(字)助(姓)

僧名

法印重尊 兼範 實寛 權大僧都定縁

当講

權少僧都顯誉 權律師宇顯 大法師実升 実聴

第三弓 講師定縁 向者実寛

第四弓 講師顯誉 向者宇顯

第五弓 講師宇顯 向者顯誉

第六、 講師実升 向者実聴

第七、 講師実聴 向者実升

第八弓 講師兼範 向者重尊

0組シ向登ノ要スハコソ略ス

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年 月 日

昭和 年 月 調

P 90

同二年西園寺人講

今年替行香

奉行 参河守助

定宗法印

重尊、

定縁權大僧都

僧名

顯權權少僧都

京顯權律師

當講 經卷已講

乘信大法師

庚聽、

第一卷

講師定宗

由者重尊

第二卷

講師定縁

由者顯權

第三卷

講師顯權

由者定縁

第四卷

講師宇顯

由者經卷

第五卷

講師經卷

由者宇顯

第六卷

講師乘信

由者庚聽

第七卷

講師庚聽

由者乘信

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

第八号

講師重尊

肉者定字

○但、肉尊ノ要スハ略ス。

同三年

西園寺八幡

一、肉北亭衆徒請定了。

南都衆怨望(厭)教録等退法之

肉、厭及此計云云

同四年 西園寺八幡

奉行美作守助知有

本奉行行字出家了。

了覺云云

僧名

尊清法印

實昭法印

顯誉大僧都

實誉少僧都

良顯少僧都

尊英得業

良憲、

朝月、

一卷

講師尊清

肉者實昭

二、

顯誉

肉者實誉

年 月 日 昭和 年 月 調

(年譜) 宗性上人資料集原稿

三、
実誉

由者 顕誉

四、
宗顕

由者 尊英

五、
尊英

由者 宗顕

六、
良憲

由者 朝田

七、
朝田

由者 良憲

八、
実昭法印

由者 尊清法印

〇但し、由者一要之、略ス

弘安五年分 不被行之 大明神御入洛故了

同六年分

実尊法印

実徳

宗顕大僧都

実誉少僧都

僧名

尊英得業

実曉、

実覚、

朝田、

年 月 日

昭和 年 月 調

P 93

本情 寅昭 印寬 兩人俱辞退 寅昭廟清天 重尊 印寬廟清天

尊英初不出仕 第二日出仕、寅嚴已構言隨身錢狀、而雖尊

奉行 美作平助知有

并引無之

一卷 講師 重尊 内者寅懷

二弓 講師 宗顯 内者寅譽

三弓 講師 寅譽 内者宗顯

四弓 講師 寅聰、 内者寅寬

五弓 講師 寅寬 内者寅聰

六弓 講師 尊英 内者朝四

七弓 講師 朝四 内者尊英

八弓 講師 重尊 内者寅懷

〇但、内者要又ハコシ路ス、

年 月 日
昭和 年 月 調

宗性上人資料集原稿

P 94

同七年

東大寺訴訟之間、衆徒押留仍不参、

同八年西園寺八講

僧名

庚譽法印

字顯、

庚昭、

庚升律師

庚聰得業

兼信律師

徹顯得業

南田、

奉行人 善左衛門大夫道衡

本請辭退

庚懷法印

庚譽、上臈云

範憲律師

金光院八講、請定之間辭退、

結座尺迦三尊佛經供養、押通等有之、

一卷、

庚譽

同者字顯

二身、

庚昭

同者庚升

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

184

1

5

10

15

20

25

三司

寅升

肉着寅昭

四司

善信

肉着寅聰

五司

、、寅聰

肉着善信

六司

、、做顯

肉着朝四

七司

、、朝四

肉着做顯

八司

、、宗顯

肉着寅譽

○但し肉着ノ要ニハコレヲ略ス

同九年

西園寺八講

僧名

尊憲法印

寅譽、

宗顯、

寅昭、
寅懷
寅清

寅升ノ僧都

兼信得業

寅聰、

光性、
範宣
胸清

P 95

年
月
日

昭和
年
月
調

P 96

本請辭退

庚懷法印

奉行安藝前司道徹

範憲僧都

金之腹情定、仍辭退云

一卷 講師尊憲

肉者寅蒼

二、一、字頭

肉者寅昭

三卷

寅照

肉者字頭

四卷

寅弁

肉者

五卷

乘信

肉者寅聰

六卷

寅聰

肉者文性

七卷

文性

肉者寅聰

八卷

寅蒼

肉者尊憲

今年ハ行香無之

の俱に問答ノ際ハコレヲ略ス

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年
月
日

昭和
年
月調

P 97

弘安十年西園寺人講

僧名

尊宣法印

宗顯、

寅升僧都

朝田律師

尊英得業

兼信、

寅聰、

雖為禁忌情定

寅玄、新

奉行、安藝前司

一卷

講師尊憲

向者宗顯

二、

、、寅升

向者朝田

三、

、、朝田

向者寅升

四、

、、尊英

向者兼信

五、

、、兼信

向者尊英

六、

、、寅聰

向者寅玄

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5 10 15 20 25

年 月 日 昭和 年 月 調

P 98

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

七、、、庚子

肉若実聴

八、、、宗顯

肉若尊憲

今年行香無之

○但、肉若ノ要ス、コシヲ略ス

建治二年陰明門院御入講

九月十七日被行之

奉行伊豆前司

僧名

法印尊海

房瀧寺

頼源山

權少僧都房珍寺

忠源山

大法師宗顯

東実聴

經田山

三卷

講師頼源

肉若房珍

四卷

講師房珍

肉若頼源

五卷

講師忠源

肉若宗顯

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5 10 15 20 25

六卷 講師字顯 肉者忠源

七卷 講師実聡 肉者経四

八卷 講師経四 肉者実聡

〇但し、肉者一要文ヲ略ス。

同三年 却八講

僧名 法印房淵 源能 尊雲 定四

権大僧都忠厚 権少僧都善弁 當講字顯

経四阿、度月法印代

力七卷 講師字顯 肉者経四

力八卷 講師経四 肉者字顯

〇但し、肉者一要文ハコレヲ略ス。

年 月 日 昭和 年 月 調

弘安元年

僧名

清印定宗 定印 權大僧都 靜成 觀華 行實傳印代 房曉
權少僧都孝快 權律師 阿闍梨兼忠 忠源僧都代

力一弓 講師 定宗 内者定印

力二弓 講師 定印 内者定宗

第三弓 講師 靜成 内者觀華

第四弓 講師 觀華 内者靜成

力五弓 講師 房曉 内者孝快

力六弓 講師 孝快 内者房曉

力七弓 講師 宗顯 内者兼忠

力八弓 講師 兼忠 内者宗顯

P/100

年 月 日 昭和 年 月 調

P 101

〇但し、由名ノ要ニハエテ略ス。

同三 僧名

尊憲法印 寛田、
執憲、
行憲法印代

静成大僧都 頼海代
房曉、
系井少僧都

字顯律師 美忠阿、
忠海代

二 弓 講師 寛田 由若尊憲

三 弓 講師 親兼 由若静成

四 弓 講師 静成 由若親兼

五 弓 講師 房曉 由若字顯

七 弓 講師 字顯 由若房曉

〇但し、由名ノ要ニハエテ略ス。

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日
昭和 年 月 調

P/02

同三年

僧名

尊憲律師

實田、忠源、

初代官
美忠出之

靜成、大像都

顯譽、

房曉、

重宗、顯律師

定觀、

自今年此人構被留仁和寺香隆寺了、故大臣殿此堂下雖被^立還
不終功之間大納言今終功了、仍今月九日被遂供養、導師八勝法

院僧正

一卷

講師尊憲

由者實田

二卷

講師實田

由者尊憲

三卷

講師靜成

由者顯譽

四卷

講師顯譽

由者靜成

五卷

講師房曉

由者字顯

六卷

講師字顯

由者房曉

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

P/13

(年譜)

宗性上人資料集原稿

七哥

講師定觀

由者忠源法印

初日十七日嵯峨殿御月忌參之間、出兼忠了、仍華所望結座之間、

如此午香了、

八哥

講師

忠源

由者定觀

○但、由者一重入略ス、

同四年

依所勤立代官了、

華信得業也、山門經内已講欲

立代官之處、山門不可然、必東大寺之由、相觸之間、立華信得業了、

同五年

之、依神木事不被行之云

同七年

僧名

實田法印

尊清、

房曉、

忠源、

字顯大僧都

定觀、

華信律師

山

朝月阿、

年
月
日

昭和
年
月調

P 104

弘安八年 大炊御門 八講

- | | | |
|----|-------|-------|
| 一卷 | 講師 實田 | 肉者 尊清 |
| 二、 | 、、 尊清 | 肉者 實田 |
| 三、 | 、、 房曉 | 肉者 忠源 |
| 四、 | 、、 忠源 | 肉者 房曉 |
| 五、 | 、、 宗顯 | 肉者 定觀 |
| 六、 | 、、 定觀 | 肉者 宗顯 |
| 七、 | 、、 兼行 | 肉者 朝田 |
| 八、 | 、、 朝田 | 肉者 兼行 |

但、肉者、要之略す、

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

P/05

僧名

字顯清印

定観大僧都

兼忠律師

忠成法印代

憲忠已講

当講

寅田法印代

房勝已講

房曉法印代

頼勝得業

朝田得業

寅田懷法印代

朝田阿闍梨

一卷

講師字顯

由者定観

二卷

定観

由者字顯

十八日、法性寺雅藤八講、今年始テ請定之由罷向、仍舊大
 炊御内八講、代官差進公曉得業了、而自後年者、面々
 代官停止之由披露有之、
 ○但之由各一要文ハ已見路ス、

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

P 106

弘安九年大炊御内八講

僧名

新

字澄法印

寛田、

字顯、

信升、

忠源法印辭返

定觀大僧都、

習不出、其故、此八講十八九兩日之由存了、
力二日出仕、不及慷慨了、所作力二日之由無違也、

新

範軍少僧都、

山

朝山阿闍梨

房曉法印

今年毛於香隆寺被行之

○海内寺年終了、

一卷講師字澄

由者字顯

二、

寛田

由者信升

三、

字顯

由者字澄

四、

信升

由者寛田

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

P/017

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

五卷

、、房曉

肉者乾憲

六卷

、、定觀

肉者朝田

七卷

、、乾憲

肉者房曉

八卷

、、朝田

肉者定觀

当年大納言（但こ内卷ノ要スハコレヲ略ス）通子、任五代賀例不經八座而直任申納言云

弘安十年大炊御門八講 僧名於香隆寺被行

宗澄法印

實田、

字顯、

房曉、

定觀大僧都

一乾憲僧都

明基阿、

朝田阿、

初日本清兼忠僧都不考、仍初日被清宗（澄法印了）

一卷

講師實田

肉者宗顯

二卷

講師宗顯

肉者實田

年
月
日

昭和
年
月調

P108

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

三卷

講師房曉

向者朝田

四卷

講師定觀

問者明基

五卷

講師宗澄

向者範憲

六卷

講師範憲

向者宗澄

七卷

講師明基

向者定觀

八卷

講師朝田

向者房曉

○但、内卷ノ要ニハ之ヲ略ス

施主雅藤

九月十八日

弘安八年

法性寺八講

僧名

宗顯法印

光弁大僧都

經内法印

兼信律師

高佛阿弥陀、古經法花供養初座ニ有之

一ニ卷

講師宗顯

向者光弁

三四卷

光弁

向者宗顯

年
月
日

昭和
年
月
調

P709

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

五え弓、經四 内者兼信

七八弓、兼信 内者經四

○但、内卷ノ要スコレヲ略ス

建治二年土御門院御入講 自十月七日被始行之

僧名

法印尊海 尊經 實嚴 權大僧都親兼 權少僧都房珍

庭縁 權律師顯聖 已講信顯 永源 大法師字顯

第七卷講師永源 内者字顯

第八弓講師字顯 問者

○但、内卷ノ要スコレヲ略ス

弘安六年土御門院御入講

奉行入 右少升俊定

年 月 日 昭和 年 月 調

5

10

15

20

25

僧名

實田法印 親性、房珍、宗顯大僧都

實譽少僧都 永源、弁真律師

房瑜、兼忠、定仙已講

無量義經 講師實田 向者親性

一卷 講師房珍 向者宗顯

二司 講師宗顯 向者房珍

三司 講師實譽 向者永源

。但、向者要文略ス。

弘安八年土御門院御入講

僧名

聖顯法印 實譽、親兼、信昇、

房曉、光井大僧都 永源、經田少僧都

年 月 日 昭和 年 月 調

P 111

并真律師 憲忠已講

〇但し、内各記ノ記事ナシ

34 寅之年吉祥院八講

自十月十七日 被始行 四ヶ日 一日三人 参向

内各八講也 重難無之

廿日

力七 弓講師 法印山憲源 内者宗顕

力八 弓講師 権律師宗顕 内者憲源

〇但し、内各ノ要文ハ略ス

同三年 廿日

力七卷 講師 権律師宗顕 内者它講山定覚 並通法印代

(年譜)
宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 34 年 7 月 3 日 調

5

10

15

20

25

八卷 講師定賞

同者宗顯

○但し、由答ノ要文ハ略ス、

同四年 依神木師入洛、自解勤仕、靜或其憚、仍性曉得業

立代官了、而菴主不受、然而無為勤仕了、結願旦廿日

七卷 講師房斯法印 同者性曉

八卷 講師性曉 同者房跡

○但し、由答ノ要文ハ略ス、

同五年 長春初高長執行之、

七卷 講師房跡 同者宗顯

八卷 講師宗顯 同者房跡

○但し、由答ノ要文ハ略ス、

P 112

34 年 三 年 十 月 廿 日

昭和 34 年 6 月 調

P113

同七年

5
廿日

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

七卷講師

静成法印

由著・宗顯大僧都

八卷講師

宗顯

由著・静成

同九年

〇但し、内卷ノ要又ハコシテ略ス。

僧名

初

忠海法印代義忠

中

源能法印

才三

宗顯法印

弁・眞律師

房・珙法印

定覚

才四

聖顯法印

兼信律師

五卷

講師・宗顯

由著・定覚

六、

定覚

由著・宗顯

〇但し、内卷ノ要又ハコシテ略ス。

年 月 日

昭和 年 月 調

P114

弘安三年西園寺八講

十二月八九兩日、初日二日佛經供養

初座三有之、

僧名

靜明法印、

源能、

實田、

憲実、

興
玄憲得業新

房珍大僧都、宗顯律師、房喻已講、房順法印代官

興福寺本清、宗縁、永信、興福寺所立整頓、辭退、宗縁處情三、重尊法印請定

一卷講師靜明

向者實田

可立代官、無施主雖相施依無其仁情

定今人、重干願情、實田法印當日
清定、

二卷

講師源能

向者憲実

三卷

講師實田

向者靜明

四卷

講師憲実

向者源能

五卷

講師房珍

向者宗顯

六卷

講師宗顯

向者房珍

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P115

(年譜)

宗性上人資料集原稿

七司

講師房瑜

由者良憲

八司

講師吉憲

由者房瑜

神奈川師座以前ハ細々公私ハ講無之

〇但、由者ノ要ニハコレヲ略ス

隆博郷八講

弘安九年閏十二月十日、為故行家郷十三年始行之

正月、明年正月十一日、但引上行之

僧名

實田法印

親性

房珎

字顯

定觀大僧都

永源

兼忠僧都

兼信律師

所供養

阿彌陀三尊

畫繪

一品經

一卷

講師實田

由者親性

年 月 日

昭和 年 月 調

P116

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

二卷、

親性

由者實田

三卷、

房珠

由者宗顯

四卷、

宗顯

由者房珠

五卷、

宗觀

由者宗顯

六卷、

永源

由者宗觀

七卷

講師兼忠

由者兼信

八卷、

兼信

由者兼忠

○但、由卷ノ要文ハコレヲ略ス、

弘安元年公家寂勝講

自十月廿三日

被始行之

奉行 藏人兼次官 雅藤

年 月 日

昭和 年 月 調

P117

僧名

澄義者

前権大僧都静明

前大僧正公亮

天台座主
年八十三

法印権大僧都静明

講師

聴衆

法印権大僧都実禅

権大僧都静成

信升

実昭

権少僧都印寛

公信

房信寺

実儼興

行華山

憲忠山

実聴興

清憲興

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年 月 日
昭和 年 月 調

P 118

權律師

宗顯

親隆

經海僧正付處

光升

經田

定祖

定經

已講 信雅

定快 東

池田 朝左 講師 宗顯

肉者親隆

○但之由今、要スレラ略ス。

吉田中納言ハ講ニ月九日 自弘安九年始之。

徳大寺ハ講 房順、重顯、敦華、信雅、親尊

淨土寺ハ講衆 七月分

房环 房信 房昭 親尊

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年 月 日
昭和 年 月 調

5

10

15

20

25

弘誓院人講衆

靜明

道清 代兼信

霞内代愿忠

房曉

信升 定觀之處

範憲

房勝

經尊

市河人講、七月五日 八月十日

弘安六年十月廿三日

安嘉内院四十九日御佛事人講衆

靜明法印

実層、

靜成、

憲実、

聖顯、

房琮、

房曉、

光并大僧都

明覚阿、

源多阿、

弘安七年九月四日

安嘉内院御一迴御人講 一日被行之

東大寺改治之間 不参、

P 1189

年 月 日

昭和 年 月 調

120
P#9

僧名	靜明	5
定觀	親性	
永源	叔華	10
実儀	房曉	
兼忠	孝快	15
範憲		

三條殿御入講二月廿一日

奉行参河前司宿所三條坊内高倉

の但し、本書ヲ扱スハ奥書ナシ

(年譜)

宗性上人資料集原稿

20

25

年
月
日

昭和
年
月調

113
國
195
号
1
冊

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5
10
15
20
25

P /

法華經第四卷抄

〇冊子本

113
195
1

(表題) 〇宗顯自筆

法華經第四卷抄上

宗顯

〇本書ハ宗性ノ自筆ニ力ム

(奥書)

寛喜三年二月七日 再治畢

智田

年
月
日

昭和
年
月
調

113
函

195
号

1
册

P 2

法華經第四卷教下

(表題) 宗顯自筆

〇冊子本

113
195
1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

法華經第四卷教下

宗顯

(端書)

已上宗貞三年中山殿御撰、顯倫答、

〇但、本書、宗性、自筆、ナリ、

年 月 日

昭和 年 月 調

P /

品類足海撰出
也
自卷至八卷

○冊子本

113
196
1

(表題)

(表題)

華嚴宗良忠大律師

（表押）

中將已滿

品類足海撰出
自一卷至
八卷也

如音輪院 隆賢

花岩宗末葉動内良忠之

(端書)

李師懷經、東大寺增運為之。

李師懷經、東大寺賴超為之。

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P 2

(端書)

美安三庫高梅匠秀馬之
李卿懷經東大寺教經也

(奥書)

品類足論提出 自卷至八卷

貞應二年正月廿四日未時許書寫了

叔筆沙門花嚴宗末葉良忠也

偏為佛法興隆修學不暇也後見華可隨喜之

東大寺西鄉今山路東之三所書之 生年廿七

南無文殊師利并

金光明四天王護國之寺住僧良忠之本也

願以此功德普及於一切我等及衆生 皆共成佛道 南無文殊師利菩薩

(年譜) 宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月 調

P 1

〔大疏上巻抄〕

〇冊子本

113
1917
1

(表題)

三帖之内一

帛

大疏上巻抄

智足院
初度

〔朱印〕東大寺印

性恵

(内題)

因明大疏科抄

依明燈抄并集記之意一抄之大旨依明燈抄
又引末文不違故少々戴當座序定及
初便解等了

年

月

日

昭和

年

月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(奥書)

書本

六月廿三日始之云

美久三年七月八日抄之了

良遍

正安元年癸巳九月廿日於法隆寺中限書寫之了

是偏為因明練習寫之了
願者以此微功必為當來
三身得脫之緣矣

執筆大律師 性惠 生年七十五

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

113
函

196
号

1
册

P 3

(裏表紙)

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

元是海波品類足海提出
自一弓至
八弓也

華嚴末葉沙門良忠

華嚴末葉沙門良忠之

年

月

日

昭和

年

月調

113

198

号
冊

P /

(表題)

有部公圃集

〇冊子本

113
198
1

有部公圃集卷之三

〇但し、本書ノ奥書ナシ

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年

月

日

昭和

年

月調

／
冊

P 2

(表題)

有宗公庫集

卷七

○冊子本

113
198
1

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

有宗公南集卷之七

の但し本書、奥書ナシ

年 月 日

昭和 年 月 調

113

図

198

号

1

冊

P 3

有字公圃集

カエ

〇冊子本

113

198

1

(表題)

有字公文集 卷中カエ

〇但し、本書ノ奥書ナシ

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年
月
日

昭和
年
月調

113
198
号
1
冊

P 02

(表題)

有字公文集 卷八

〇冊子本

113
198
1

有字公文集 卷八

〇但し、本書ノ奥書ナシ

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

113
199
8-2
冊

P. /

横綱経中巻二葉又抄

宗性自筆本

〇具書ハ仁治四年二月二十日ノ条ナリ

(抄出済)

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

113

200

号

1

册

P /

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

建長三年五月廿講論匠 庚弘向良事

建長三年本世親講論匠 庚弘向慶尊 廿七

(與書)

澄藝

年

月

日

昭和

年

月調

113

200

1冊

P 1

(表題)

俱舎才十四五卷

内巻

〇冊子本

113
200
1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

俱舎才十四五卷内巻

建長 年冬三比書之

沙内 寛弘

(端書)

建長三年十四五州講(実弘内良兼)

建長三年十四五州講(実弘内良兼)

年

月

日

昭和

年

月調

113
図

20/
号

1
冊

P

古論草

(表題)

〇冊子本

113
20/
1

古論草

〇但、肉各抄中、字性ノ草本モアリ、
又々本書ノ奥書ナシ。

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年

月

日

昭和

年

月調

113
頁

202
号

1
冊

P /

唯識会 問答技

○冊子本

113
202
1

○表題ナシ、宗性ノ自筆ナリ、

(端書)

寛文三年唯識会 内裏英

○但し、本書ノ奥書ハコレナク

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年
月
日

昭和
年
月調

113

202

号13

6-1

册

P 1

探玄記抄三卷抄

〇冊子本

113

202B

6-1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

探玄記抄三卷抄

肝要抄外
聽聞集

上本

法門釋字類

端書

「文小四庫探玄記抄講、言辭肉類卷」

「嘉祿三年抄講字覺肉成卷」

「仁平四年抄講、教實肉定範」

年
月
日

昭和
年
月
調

5

10

15

20

25

「建保四年廿構道縁内崇源、文永四年廿構教尊内宗信」

「仁平四年廿構俊寛内定寛」

「嘉禄三年廿構聖祥内慶重、文永四年廿構教尊内宗信」

「文永四年廿構定教内覚禅」

「仁平四年俊朝内寛融」

「文永四年廿構、宗信内教尊、教尊始疑之」

「仁平四年廿構、教寛内定寛」

「建保四年廿構、光慶内信升」

「口四年廿構、教玄内仁升」

「嘉禄三年廿構、光慶内定寛」

「嘉禄三年廿構、慶重内教尊」

「仁平四年廿構、定教内教寛、文永四年廿構、教尊内宗信」

「文永四年廿構、覚禅内宗信」

年
月
日

昭和
年
月
調

P 3

仁平四年廿講并全肉有樹

建保四年廿講并益肉藏田、又、四年廿講益并肉快并

嘉祿三年廿講聖禪肉度重

仁平四年廿講俊朝肉行超、又、四年廿講宗明肉幸源

仁平四年廿講定範肉教實

仁平四年廿講教實肉榮存

仁平四年廿講教實肉有樹

仁平四年廿講、定範肉教實

又、永四年廿講、良并肉顯誉

建保四年廿講、并海肉輔已講

仁平四年廿講、教實肉定範

建保四年廿講、宗通肉勝并

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

P 4

嘉祿三年卅講、厚栄内成田成房已講、

仁平四年卅講、實延内延口、又永四年卅講、盛舜内快舜、

嘉祿四年卅講、幸藝内宗^性、又永四年卅講、幸源内宗明、

建保四年卅講、光政内更去、

嘉祿三年卅講、良忠内頼尊、又永四年卅講、顯養内良舜、

嘉祿三年卅講、宗一内幸藝、又永四年卅講、内成内栄兼、

延和四年卅講、有樹内并宗、

又永四年卅講、栄禪内宗成、

又永四年卅講、勝延律師、内光喜已講、

〇但、本書抄出、奥書ナシ、

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

113
函

202
号B

6-2
册

P /

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(表題)

探玄記第七卷聽聞集抄下

〇冊子本

113
202B
6-2

探玄記第七卷聽聞集抄下

字頭

(端書)

仁治三年卅一、寅弘向範美、

仁治三年卅一、貞變向卍慶重、弘安三年卅一、慶性向教尊、

年
月
日

昭和
年
月
調

P 2

5
10
15
20
25

(年譜)
宗性上人資料集原稿

仁治三年十一月廿一日、良忠由聖禪

仁治三年十一月廿一日、光曉由藏田

仁治三年十一月廿一日、範辨由惠賢

義久二年十一月廿一日、聖禪由升度

義久二年十一月廿一日、勝弁由聖禪

仁治三年十一月廿一日、賴尊由良辨

仁治三年十一月廿一日、重禪由玄淵

仁治三年十一月廿一日、信盛由榮兼

仁治三年十一月廿一日、光曉由賢緣

弘安元年十一月廿一日、越後擬構由相模擬構

弘安元年十一月廿一日、大進擬構由助清眼

義久二年十一月廿一日、道海由義性

由答記三論

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

仁治三年卅一、快辨由幸藝、

仁治三年卅一、聖禪由良忠、

弘安三年卅一、審源由禪忠大律師、

仁治三年卅一、藏田由光曉、

仁治三年卅一、奥源由田辨、

仁治三年卅一、次曉由藏田、

弘安三年卅一、審源由禪忠、

弘安二年卅一、道源由義性、

弘安二年卅一、定慶由宗性、

弘安六年卅一、良曉由顯蒼、

仁治三年卅一、幸源由宣玄、

弘安三年卅一、明堂由頼尊、

年
月
日

昭和
年
月調

10/13

函
202
号

6-2
册

P 4

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

仁治三年卅一、快舜向幸藝。

□□之年卅一、頼美向賢俊。

美久二一、卅一、定度向宗性。

文治三一、新卅一、顯蓮向延真。

美久二一、卅一、望置寺僧都向宇通。

弘安六年卅一、頼美向度実。

文治三一、新卅一、講覚深向度尊、弘安六年卅一、泰守向顯玄。

文治三一、新卅一、講尊意向岩祐。

美久二一、卅一、備前擬構向常陸擬構。

仁治三一、卅一、海匠光曉向裁田。

□年、新卅一、并海向仁并。

美久二一、卅一、宗通、向望置寺僧都。

年
月
日

昭和
年
月
調

P 5

年
月
日

昭和
年
月
調

美久二 1. 卅 1. 備前 擬講、由常陸 擬講、
 仁治三年 卅 1. 宣意、由幸海、
 仁治三年 卅 1. 良忠、由聖祥、
 仁治三 1. 卅 1. 度重、由良曉、
 美久二 1. 卅 1. 榮存、由俊譽、新、
 仁治三年 卅 1. 幸藝、由快辨、
 弘安元年 卅 1. 度性、由審深、
 美久二 1. 卅 1. 勝并、由聖祥、
 弘安元年 卅 1. 顯譽、由良曉、
 仁治三年 卅 1. 玄淵、由重祥、
 弘安元年 卅 1. 親尊、由度性、
 弘安元年 卅 1. 公曉、由宗信、

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P 6

〇 廿講 幸藝由聖禪

弘安三年 廿講 親尊由度性

弘安三年 廿一 親尊由度性

美久二一 廿一 聖禪由勝升

仁治三 卅一 田解由実源

弘安三年 卅一 賢信由頼美

美久二一 卅一 聖禪由升度

文治三十一 新廿講 行忠由克度

美久二一 卅一 俊峯由実源

美久二一 卅一 実云由定成

美久二一 重禪由玄洲

美久二一 廿講 隆性由教田

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

P 7

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

仁治三年廿一、良辨由頼尊、

之治三年廿一、延真由頼口、

美久二十、廿一、由輔律師、

美久二十、廿一、并俊修由道仁、

美久二十、廿一、俊彦由栄源、

弘安三年廿一、助法眼由光惠、

弘安三年廿一、頼尊由明寛、

頼玄、

(奥書)

探玄記第七卷三十講、自弘安三年十二月廿三日始行之、
且為聽聞、且為談義、就美久仁治兩度三十講、聽聞集論義、
令勘又、弘安三年廿講論義同出入之畢、八幡宮新三十
講論義少々同記之、已上論義百五十一條也、其外當所未

年

月

日

昭和

年

月調

P 8

勘文論義十四年、以文尺披見之、次遂可勘入之、仰願以此華嚴習學之微功、必為往生淨土之業目而已。

華嚴字末學權大僧都宗顯

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年

月

日

昭和

年

月調

113
202
63
冊

P 1

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

探玄記第十二卷抄 聴圓集

○冊子本

113
202
63

(表題)

文永三年

探玄記第十二卷抄

肝要抄外
聚圓集

市三地

沙門釋宗顯

(端書)

美久二年探玄記三十講縁永向辰龍

元久二年探玄記卅講道厚向道縁

年
月
日

昭和
年
月
調

5

10

15

20

25

「寛之四年探玄記卅講、定仙房僧都内勝升、

「寛之四年探玄記三十講、度重内実弘、

「元久二年探玄記卅講、重行内道縁、

「寛之四年探玄記卅講、道源内藏田、

「寛之四年探玄記卅講、良曉内贤清、

「元久二年探玄記卅講、行最内章觀、

「寛之四年探玄記三十講、栄兼内憲源、

「寛之四年探玄記卅講、更弘内度重、

「寛之四年探玄記卅講、度成内貞舜、

「元久二年探玄記卅講、重行内道縁、

「元久二年探玄記卅講、尾光内量忠、

「寛之四年探玄記 内栄兼、

年 月 日

昭和 年 月 調

P 3

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

「寛之四年探玄記卅講、良辨肉頼尊、

「元久二年探玄記卅講、定度肉道源、

「寛之四年探玄記三十講、定佛房僧都肉勝升、

「元久二年探玄記卅講、并修肉道仁、

「寛之四年探玄記卅講、信盛肉山舜、

「元久二年探玄記卅講、道源肉定度、

「寛之四年探玄記卅講、顯卷肉快蒼、

「寛之四年探玄記卅講、賢清肉良曉、

「元久二年探玄記卅講、美性肉光惠、

「元久二年探玄記卅講、行嚴肉道曉、

「寛之四年探玄記卅講、度成肉貞舜、

「寛之四年探玄記卅講、良曉肉賢清、

年
月
日

昭和
年
月調

5

10

15

20

25

「弟久二年探玄記七卷廿講、定度肉宗」

「實元四年探玄記廿講、顯卷肉快卷」

「實元四年探玄記廿講、賴尊肉良辨」

「實元四年探玄記廿講、信盛肉田辨」

「實元四年探玄記廿講、範義肉良忠」

「實元四年探玄記廿講、快辨肉良忠」

「實元四年探玄記廿講、施匠範義肉賴尊」

「實元四年探玄記三十講、藏山肉道海」

「實元四年探玄記廿講、重禪肉孝源」

「第九卷肝要抄論義也」

「元久二年探玄記廿講、道仁肉并修」

「實元四年探玄記廿講、勝并肉定佛房僧却」

P 6

年 月 日

昭和

年

月 調

5
10
15
20
25

「元久二年探玄記廿講、道經向道源」

「寛之四年探玄記廿講、榮華肉馬源」

「寛之四年探玄記廿講、頼要肉良餅」

「寛之四年探玄記廿講、定佛房口口」

「元久二年探玄記口口」

「寛之四年探玄記三十講、玄荊肉宴栄」

「寛之四年探玄記廿講、宴栄肉玄荊」

(奥書)

文永三年四月廿五日於東大寺蓮勝院記之

大法师字頭

年廿四
藤十五

〇但乙、本書中ニ宗性ノ指書井自筆ノ書入多クアリ。

P 5

年
月
日

昭和
年
月調

5

10

15

20

25

探玄記第十二卷抄

○冊子本

113
2-2
6-4

(表題)

文永三年

探玄記
抄十二卷抄

肝要抄并聴聞集外
僧都抄

抄内釋字題之

僧都抄云

此段永正三年仙洞論匠、今尋同宗題

(端書)

又示三年仙洞論匠、今尋同宗題

P 1

年
月
日

昭和

34年17、6月調

(奥書)

文永三年四月十八日、於東大寺尊勝殿之東面書寫之了。
僧都叔之内、除肝要抄并元久二年實元四年聘聞集海義其
外僧却叔海義出處也、是備依有今年 仙洞海匠參勤之志
必用意當所海義不簡大小記了、後賢之輩、必唱念佛可也、訪
生者也、矣

花嚴字沙門釋字顯

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

113
202
号
6-5
册

P 1

探玄記第十二卷抄

〇冊子本

113
2-2
6-5

(表題)

探玄記第十二卷抄

肝要抄外
瑪車集

第四五地

又三三

沙内釋宗顯

(端書)

寛文四年探玄記卅講定成内聖禪

寛文四年探玄記卅講宴栄内玄刹

又久二年探玄記卅講道縁内重行

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

P 2

木本西庄の付録アリ↓

「元久二年探玄記卅講并修内道仙」

「寛元四年探玄記三十講、度重内実弘」

「寛元四年探玄記卅講、論匠頼尊内親兼」

「元久二年探玄記卅講、道源内定慶」

「寛元四年探玄記卅講、快辨内良嚴」

「兼久三年探玄記卅講、八卷宗一内嚴源」

「嘉祿三年花嚴卅講、八卷宗嚴内兼美」

「兼久三年探玄記卅講、八卷宗一内実源」

「寛元四年探玄記三十講、勝升内定佛房僧都」

「寛元四年探玄記卅講、快譽内顕兼」

「寛元四年探玄記卅講、賢清内兼美」

「寛元四年探玄記卅講、実源内兼美」

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

P 3

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

「寛之四年探玄記三十講、快養肉顯養」

「寛之四年探玄記三十講、度重肉実34」

「寛之四年探玄記卅講、良辨肉頼尊」

「寛之四年探玄記卅講、集実34肉度重」

和五地

「寛之四年探玄記三十講、前匠、良忠大法師、肉聖禪大法師」

「寛之四年探玄記卅講、良忠肉範美」

「元久二年探玄記卅講、美性肉道曉」

「寛之四年探玄記卅講、貞辨肉度成」

「寛之四年探玄記卅講、貞34肉度重」

「元久二年探玄記卅講、重行肉度重」

「寛之四年探玄記卅講、幸源肉宣禪」

年 月 日

昭和 年 月 調

元久二年探玄記廿講教玄由并盛

（奥書）

○本書中、宗性ノ事入レアリ。

自又山三年二月上旬之北探玄記力十二司於上綱御前讀
之、二月廿七日
復畢、為當年仙洞論匠配夕故也、其間以文尺披見之
次、付元久二年實元四年兩度聽聞集如形勘又了、自四月上
旬之北、漸々力二重答少々上綱御草所申請也、雖非義道委
悉且、~~可~~可必未代秘出尤可秘藏之者也。

自同五月十二日 仙洞御講被始行之、當寺分講師、實惠律
師、論匠衆、宗顯力三度
定度力三度 已上三人、良性得業、雖被
下 御點御辭退了、

大講師字顯

年廿四
稿十五

探玄記力十二司被下

P 4

年

月

日

昭和

年

月調

113
202
6-6
冊

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5
10
15
20
25

探玄記十五卷抄

〇冊子本

113
202
6-2

探玄記十五卷抄

聴聞集

中

辺内釋宗題

P |

年
月
日

昭和
年
月調

(端書)

建長二年卅構勝升由定成

建長二年卅構宴深由宗覺

建長二年卅構乾辨由勝延

建長二年卅構藏田由道源

建長二年卅構定成由勝升

建長二年卅構宗覺由宴深

安貞二年卅構藏田由定成

安貞二年卅構範美由俊登

安貞二年卅構增去由定佛房已構

建長二年卅構田舜由信盛

建長二年卅構定成由深兼

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

P 2

年
月
日

昭和
年
月
調

5

10

15

20

25

「甲寅二年廿構、并盛肉并海、

「建長二年廿構肉幸源、并元二年廿構藏田肉光曉、

又示之年仙洞論匠、玄親肉宗曉、

「并元二年景惠肉望遷寺已構、

「建長二年廿構、良忠肉聖祥、

「并元二年廿構道澄肉尊詮、

「建長二年廿構嚴範肉望遷寺信都、

「并元二年廿構道縁肉并盛、

「并元二年廿構、空置寺已構肉景惠、

「甲寅二年廿構、米源肉光康、

「建長二年廿構、惠源肉貞解、

「建長二年廿構、道源肉藏田律師、

年
月
日

昭和
年
月調

P 4

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

甲寅二年卅構道源向宗覺
弟元二年卅構法眼房向聖顯

甲寅三年卅構輔僧却由望遷寺法眼

甲寅三年卅構寧永向仁升

甲寅三年卅構玄荆向勝升

甲寅三年卅構道隆向華詮

甲寅三年卅構玄度向教玄

甲寅三年卅構乾美向重禪

甲寅三年卅構仁升向行嚴

甲寅三年卅構道源向弟性

甲寅三年卅構道仁向辰龍

建長三年卅構聖禪向良忠

年 月 日

昭和 年 月 調

P 5

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

建長二年廿講、頼尊由月來、

弟元二年廿講、道源由弟性、

建長二年廿講、良忠由聖禪、

安貞二年廿講、竺暹由法眼、由輔僧都、

安貞二年廿講、并海由并整、

安貞二年廿講、仁并由寧永、

弟元二年廿講、行嚴由仁并、

建長二年廿講、聖禪由良忠、

(奥書)

傳領經并

年

月

日

昭和

年

月調

113
函

203
号

1
册

P /

(表題)

〔探玄記用意枚〕

〇冊子本

113
203
1

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

用意枚

探玄記六

宗題

〇但し本書、奥書ハ十二

年
月
日

昭和
年
月
調

113
函

204
号

3-1
册

P /

探玄記第十五卷古題抄

(表題)

〇冊子本

113
204
3-1

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

探玄記第十五卷古題抄上

沙内釋宗顯

(内題)

探玄記第十五卷古題抄

建長三年正月十七日抄始之

年
月
日

昭和
年
月
調

端書

弟之二年卅構、聖詮内道三

弟之二年卅構、聖詮内道詮

弟之二年卅構、藏内内光院

弟之二年卅構、章組内室禪

弟之二年卅構、聖性内道源

弟之二年卅構、聖禪内光院

弟之二年卅構、室禪内範永

弟之二年卅構、教玄内光院

弟之二年卅構、信并内

弟之二年卅構、信盛内頼尊

弟之二年卅構、尊詮内道詮

弟之二年卅構、宗實内道源

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

P 3

(年譜)
宗性上人資料集原稿

5
10
15
20
25
「弟元二年廿講、行嚴肉仁并、」

「弟元二年廿講、并海肉并盛、」

「弟元二年章觀肉重禪、」

「弟元二年廿講、教去肉克度、」

「弟元二年廿講、道曉肉道俊、」

「弟元二年廿講、定度肉喜海、」

「弟元二年廿講、信盛肉賴尊、」

「弟元二年廿講、賴尊肉信盛、」

「弟元二年廿講、并盛肉道緣、」

十忍品

「弟元二年廿講、道性、海眼肉聖誑、」

「弟元二年廿講、緣義肉并海、」

年
月
日

昭和
年
月
調

P 4

「安貞二年廿講、美信内増玄、」

「安貞二年廿講、範美内俊誉、」

「安貞二年三十講、次岐内聖禪、」

「安貞二年廿講、頼尊内信盛、」

「安貞二年廿講、次岐内聖禪、」

「安貞二年廿講、勝并内玄洲、」

「美之三年廿講、次岐内藏内、」

「美之三年廿講、辰禪内道仁、」

「安貞二年廿講、美信内増玄、」

「美之三年廿講、」

「美之三年廿講、次岐内藏内、」

「安貞二年廿講、信盛内頼尊、」

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年
月
日

昭和
年
月調

P 5

「美之二年廿構」

「美之二年度度同教去」

「安貞二年廿構、賴尊同信盛」

「僧祇品」

「美之二年廿構、聖詮同道性諸眼」

「美之二年廿構、尊詮同道澄」

「安貞二年廿構、範美同俊譽」

「安貞二年廿構、藏田同定成」

「安貞二年廿構、增去同美信」

「壽命品」

「安貞二年廿構、增去同美信」

「美之二年廿構、緣永同升海」

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P. 6

安貞二年縁羌由仁并

安貞二年卅講玄荆由勝并

弟之二年卅講道澄由尊旌

弟之二年卅講支度由教玄

安貞二年卅講範美同重祥

弟之二年卅講仁并同行晟

弟之二年道仁由辰額

弟之二年卅講

(奥書)

又永元年七月二日、於東勝院書寫了

寫本和足院庚子草也、依為今年 仙洞梅匠既文申出之

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

113
函

204
号

3-2
册

P 7

年
月
日

昭和
年
月
調

同月八日
一了

華嚴宗末葉
沙門釋宗顓

5

10

(年譜)

15

20

宗性上人資料集原稿

25

113
函
204
号
3-2
册

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5
10
15
20
25

探玄記第十五卷古題抄

〇冊子本

113
204
3-2

(表題)

探玄記第十五卷古題抄中

沙門釋宗顯

探玄記第十五卷古題抄二

井佳處品

P 1

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

「美之二年廿講行嚴由仁升」

「美之二年并并由行嚴」

佛不思議經品

「美之二年廿講道澄由并盛」

「安貞道源由宗實」

緣

「安貞二年口由」

「安貞性運同之」

「美之二年廿講并海由縁永」

「美之二年廿講重行由延真」

「安貞二年廿講乾美由重祥」

「美之延真由重行」

「美之二年廿講并盛由道縁」

年 月 日

昭和 年 月 調

安貞二年廿構、字^生良忠

相濟品

安貞二年廿構、字永同仁并

安貞二年廿構、俊菅由範兼

安貞二年廿構、信并内殿範

安貞二年廿構、藏山由定成

安貞二年廿構、信盛由頼尊

安貞二年廿構、勝并同玄荆

安貞二年廿構、喜海由定度

安貞二年廿構、重祥由章觀

(本奥書)

寫本云

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

P 4

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

建長二年二月二日於知足院草菴抄此帖了。抑探玄記
力十五百者、去年車勝院卅講當處也、而去年窮冬諸方
卅講并計合之間、衆議評定、今年延引了。□勤仕彼講
以美云、定貞已出論義當處、尺更弄如形勘合之、遇意趣
聊記之、然而此勤未終^七月廿六日ヨリ彼講已始行、仍中途
退之、雖密抄會勤^五備後日癸亥還書、往年論義了。
願後望之者、見^五癸亥勤垂龍象之表而已。

少僧^二庚^三子^四
戒藤^十四

(與書)

又永平年七月九日、於^五車勝院書了。
原本者、知足院庚子草也、依^五爲今年仙洞配文、自知足院
申出之了。
華嚴宗末葉、幼内釋字顯。

年
月
日

昭和
年
月
調

113

國

204
号

3-23
册

P 01

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

探玄記第十五号古題板下

〇冊子本

113
204
3-3

(表題)

探玄記第十五号古題板下

沙門釋宗顯

(端書)

并元二年卅撰喜海内定度
并元二年卅撰重行内延真

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

美之二年廿構道俊向道曉

美之二年道曉向道俊

美之二年道澄向尊性

美之二年廿構道縁向升盛

美之二年廿構重禪向章親

美之二年廿構定度向喜海

美之二年廿構藏田向覺曉

美之二年廿構道澄向

(本國書)

厚本云

建長二年二月三日夜寐於知足腰草菴按此不依為去年

廿構當處也抑蛭蛭之身雖為夕陽草露之師易消朝

年
月
日

昭和
年
月
調

且是只為今生名利消往古論義者次偏是期未世得脫前厚
當處尺文也、以此遇為之、跡進彼後、馬之賢路、莊謬、端、兩雖
取後、賢之嘲、畔、紹隆思深、還、快、悅、初、心、一、見、願、三、寶、諸、天
垂、意、臨、三、世、集、地、之、成、就、矣、

干時、松風、峰、高、寒、北、谷、結、火、爐、無、火、右、筆、更、冷、非、傳、燈
之、思、者、雖、致、翰、墨、之、勤、者、也、

閑居隱士 非人 庚子

(與書)

又示去年七月人日、於尊勝院書寫之了、
厚本知是、隱、庚、子、草、之、依、依、為、今、年、仙、洞、論、正、既、文、申
出、之、了、尤、可、秘、藏、者、也、上、中、下、三、帖、在、之、

年 月 日
昭和 年 月 調

13
函

204
号

3-3
册

P 4

年
月
日

昭和
年
月
調

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

花山殿末葉大律師宗顯

(宗性上人研究会)

P 5

(紙背文書)

新在生供衆交名事

合

能登津橋

讚岐振構

大進振構

学眼房得業

備前阿爾梨

常陸五師

少納言得業

實録房

武蔵得業

土佐

琳舜房

越前

醍醐

廣堅房

少納言得業

良守房

良印房

春林房

越後

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年

月

日

昭和

年

月調

113
國

204
号

33
册

P 6

善蓮房

少納言

現長房

幡戸之石橋

延良房

兼堂房

5

伊子公

良親房

善因房

顯道房

丹後前王師

良善房

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

113
205
7-1
冊

P /

華嚴字枝葉抄

〇冊子本

113
205
7-1

(表題)

華嚴字枝葉抄

宗題

(端書)

安元三年宸事御儀

元暦二年宸勝儀 禮後由并時律師

寛元三年河勝寺御儀 宸午由宗性僧部

年 月 日
昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(真書)

(本奥書)

又示八年癸十一月二十四日時於東大寺知足院草菴必探玄
 記冲四卷三十講引見此尺之時依彌演義披十願十藏非是
 位得為向端信不成立何妙有同又藏願等寄他會若尚有
 別同之尺三迴此遇案畢

(端書)

寶治元年法勝寺卿人講性親由字小大僧都
 建保六年仙洞寶勝講田海僧都良亮僧都
 建久五年寶勝講賴專由聖覺己講
 建曆元年仙洞善海義賴惠僧都由顯尊大僧都

(本奥書)

又示三年冬丙十二月七日時於東大寺知足院草菴以賴惠

年 月 日
 昭和 年 月 調

5 10 15 20 25

法印自筆之草本寫之畢見失主之筆跡、乃往事重事之淚、
洵袂當欲暮之、~~歲~~歲末願存算之悲、銘肝云彼云此哀
哉痛哉

華嚴末葉法印字性記之

(端書)

仁治之年探玄記力之卷三講、更添向聖禪

(本國書)

又示三年丙四月八日時於東大寺知足院別所之草卷取出
之畢、此等梅義之尺文、去年冬比於海住山十輪院多分記
録之、樸陽道璿之疏、蓋齊五減之尺、去年三月之始、辭山寺之
後、自或禪僧之邊、借得其本之內、於此字寫所書添也、宗性適
雖歸本寺、猶卜草卷之內居、聊雖嗜修學末并華嚴之字義

年 月 日
昭和 年 月 調

5
10
15
20
25

然而為勸初心學信緣起、雖合通之梗概、必用後昆惠解廣
集經論章疏之要文、願以此微切、早為上生內院之業、願答此
然、速速、值遇、尊、之、望焉。

右筆華嚴字末葉清印權大僧都字十性

年終之十五

夏曆五十二

(奥書)

干時又引九年六月廿九日、於東大寺尊勝院書寫了。
於文尺着、斜略之不審之時者、可引見正本也。

花嚴末葉沙門尺字顯(花押)

P 4

年
月
日

昭和
年
月
調

華嚴宗枝葉抄 二

○冊子本

113
205
17-2

(表題)

華嚴宗枝葉抄 二

相傳頼美

原題

(本圖書)

此論義不審之餘去又元之甲子二月十一日以消息狀相尋
照福寺縁田傳葉之處同十六日返報狀云……○中略……

年
月
日

昭和
年
月調

同三年丙寅十二月二十三日時記録此論義難答之次依思出往
 事所書入之也、彼得業者、去年正月之日之朝入滅畢、每見
 故人事置之言、悲無又可同訪之、方修學之校、群雖欣朝、聞於
 夕死匠之畢、世誰人不傷嗟之哉

華嚴末華法印厚性記之

(本奥書)
 其書

此論義一乘陀三十講覺晴已講同之云云

賢愚抄

一乘陀三十講覺晴已講同之畢

(本奥書)

文永三年丙寅十二月二十二日時於東大寺知足院別所草菴抄之
 畢此論義之尺文、去年冬比於海住山十輪院多書出之、樣

陽道禪之疏、蓋齊之滅之尺、去^二月之始、辟山寺之後、自或禪
 僧之邊、借得其本之向、今年夏秋之候、於此菴室漸々書法之
 問答之言、此程所記錄也、且爲斷初之疑網、且爲用後學之
 惠解、廣聚經海章疏處々之要文、耶注、新古論義、重々之難答、
 弥勒慈尊知見此爲誠春日權現哀愍此微功一期終焉之暮、
 施引接於與率之雲、三層世法之曉、勸悟入於唯心之月、過去
 父母恩愛之親族、永離流轉於五道三有之鄉、現在同法無機
 之善友、必遂再會於龍華鷄足之砌、口別覺遍佛正之唱、滅也、
 推穢土、詣淨土、更弘法師之告別也、自外院移內院、一々所迴
 向各々得成就而已

左筆華嚴字末葉法印權大僧都字^性

年六十五

年 月 日

昭和 年 月 調

113

205

17-2

冊

P 4

(奥書)

干時、又永九年七月十五日、於東大寺、華勝院書寫了、
尺文抄略之、不審之時者、可引見正本也

花嚴原末葉沙門尺字顯

夏曆五十三

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年

月

日

昭和

年

月調

P 1

〔華嚴宗枝葉抄〕

元

○冊子本

113
205
17-3

(表題)

華嚴宗枝葉抄元

(端書)

文永五年安勝講房曉向宗性法印

文永四年探玄記才三卷三十講慶實向貞賢

宗顯

5
10
15
20
25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

建長元年仙洞最勝講經海大僧都宗性大僧都

仁治二年妙勝寺御入講宗性律師

弘長元年法勝寺御入講經玄宗性法印

(本奥書)

宗性其時兼為澄義者之間不及才二重難

仁治二年石清水八幡宮十六層講房源已講宗性律師

安貞三年正月最勝寺院御入講宗性御智田律師

文永四年贈皇太后官御入講宗性御尊經法印

嘉祿三年撰玄記才三卷三十講幸茲宗性

年
月
日

昭和
年
月
調

P 3

(本奥書)

又前七年庚申秋八日^申時於東大寺知足院草荒披之畢
去七月中欲終其功之處參法勝寺師人懺懺義者之間彼二
諦沙汰依計層此一帖抄出所達寫也願依此微功速速免率
受生之望願答其深心必預蘇華南法之益彼字專法師之告
別也遂再會於三會之曉月尊教法師之早世也結緣於九品
之朝露別為父悲由離苦得脫物三界之道滅罪生善而已

右筆華嚴宗末葉權僧正宗性

年終之十九

夏龍五十七

(年譜)

宗性上人資料集原稿

113

208

号

113

册

P 4

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5 10 15 20 25

干時又示九年八月八日於東大寺尊勝院書寫之
尺又申間科略之不審之時者正本可引見之

花嚴末葉功門秋宗顯

年 月 日 昭和 年 月 調

(新抄之書)

宗顯里田新庄枕狀

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

伊賀國里田新庄者、兼安年中、後白川法皇中時、顯惠清印

為百口學生供料庄殊分、而申立當庄畢、即於彼領家職相

傳知行取無相違、而彼領家職讓尊勝殿并曉法印、其後為尊

勝限、即勤花嚴律役、而就供料聊依有違亂、任根元返付西

室之處、定顯法印限永代、懷賜字顯畢、然而房依有子細

於彼庄領家職相副定顯法印、懷狀令懷進東大寺別當僧正

御房畢、於何後者、更不可懸花嚴律役、顯惠并曉相進年繼

等、同雖可相副之、依相交全事歟、其口田所副進、案又也、且

為當在代、所懷賜西南隅、散在田園畢、彼此相傳、自後更不可

有違亂也、^隱口有殊子細被避出、領家職於物寺等之時者、任相

傳之根元、欲返賜宗顯之枕狀件

P 1 A

年
月
日

昭和
年
月
調

113

205

号

17-3

册

(54 皆之表)

P 2 A

文
正
八
年
正
月
日

5

10

(年譜)

15

20

25

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

(宗性上人研究会)

113
205
7-4

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

〔華嚴宗枝葉抄〕七

〇冊子本

113
205
7-4

(表題)

華嚴宗枝葉抄七

宗題

(端書)

「延治七年十月、信超大僧都、向宗性前權僧正」

○松尾庄の文庫アリ

P

年 月 日
昭和 年 月 調

P 2

(本奥書)

文永七年暮秋之北、爲自來十月七日、欲被始行宸筆御八講、
稽古修學之次、入法華三昧、說諸華經故事、天台宗人之所存、
不害之候、相尋園城寺定田法印之慶注送詞云、

(端書)

寶治元年三月聖覺法印十三年忌辰五部大乘十講、言俊大
僧都内宗性大僧都、

(本奥書)

已上文永八年四月九日園城寺定田法印所勒送之也、
又義爲奉書後學可然之、書寫之後、返遣被本畢、

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

（本奥書）

又承人年^{辛未}五月二十一日時於東大寺如足院之草庵授之

畢去年之冬自十月七日 法皇於西郊龜山殿仙洞欲被始

行宸筆御人講之時 宗性入其人齋敷教之由兼有恩庫

之間、必^ハ彼精淡之用意、暮秋之頃、比付華嚴字章疏之法

華經論義雖始授之勤、期日近々二帝急々不終微功、恐令

參勤畢、而今年自青陽春初至末明夏半、再抽其志、重勵其

勤、以之、寔值遇慈氏尊之業因、又奉資春日大明神之法身、仰

願佛神垂哀宿望成就往詣内院見佛聞法、隨從下生除迷南

悟、乃至法界平等利益而已

右筆華嚴末葉權僧正宗性

年終滿七十

年
月
日

昭和
年
月
調

P 4

(奥書)

于時又永九年九月九日、於東大寺尊勝院書寫之。
尺又中間又略之、不審之口者可引見正本也。

華嚴字末葉沙内尺字顯。

(奥筆)

相傳公誨之

年 齡 五 十 八

5

10

15

20

25

(年 譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月
調

113
函

205
号

17-5
册

P /

華嚴宗枝葉抄八

〇冊子本

113
205
17-5

(表題)

華嚴宗枝葉抄第八

權律師覺聖

(本奥書)

己上元弘八年七月十三日 園城寺實田法印一所注送也

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

已上文永八年四月九日園城寺定因法印所勸送之也
又義為委悉後學可執之書寫之後及遺彼本畢

(本奥書)

寫本云

文永八年辛未五月五日時酉於東大寺知足隱草菴教之畢

去年之冬初自十月七日法皇於西郊龜山殿仙洞欲被

始行震事御八講之時字性入其人數之由兼有鳳園之間

為彼精歲之用意初後九月之比付華嚴字章疏之法花經

論義雖始抄出之勤後息之身空送日月不終微功恐令考

勤畢而今年自青陽春初至朱明夏終再抽言志重勵其勤

次之宛值遇系氏尊之掌因又奉資春日大明神之法集仰

願佛神聖哀宿望成就性指办陀貝佛南法隨從下生迷南

P 2

年
月
日

昭和
年
月
調

P 3

悟乃至平等利益而已

右筆華嚴宗末葉權僧正原性

年終滿七十

夏臘五十八

(奥書)

曆應三年三月廿一日、訛廣一助之書、書得之畢、

此併無為明隆佛法二親師匠等一切聖靈為離生死、證大并也

權律師覺聖

之十五
四十九

同年月廿三日一交了、

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

113

國

205

号

7-6

冊

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

華嚴宗枝葉抄

九

○冊子本

113

205

7-6

(表題)

華嚴宗枝葉抄九

權律師賞聖

(端書)

建長三年三月二十日淨金耐院供養人講宗性由定辨大僧都

P /

年
月
日

昭和
年
月
調

(本奥書)

写本云

文永九年^申六月三日晒於東大寺知足院草菴抄之畢
去年之曆自春至夏聊有所存之旨就華嚴原之清華經
論義少々抄出之畢自今以降其未休其勤重勵之華
嚴原章疏中就法花經第六并第七兩卷之論義十條所類
聚之也、去年春秋玄冬之比書出經論章疏之要文、當年春
陽朱明之候、記録古義、今案之難答、以此勤奉增春日權現
之法象、答其志、願生現率内殿之寶宮晝夜礼一生補處之
聖容、朝暮悟三世差別之深理、近自有縁之群類生無辺之
衆生、可令濟度各々施引接而已。

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

年 齡 七 十 一

頁 數 五 十 九

(奥書) 宗顯自筆

于時、元弘九年十一月十日、脚於東大寺尊勝院書寫之。

尺文中間、和又略之、尤為懈怠。

花嚴末葉、沙門宗顯

(奥書) 覺聖自筆

曆應二年二月廿一日、所被略文、任正本書入之畢

權律師覺聖

六十五
四十九

同年、月廿三日、一了。

年 月 日

昭和 年 月 調

113

205

号

17-17

册

P /

華嚴宗枝葉抄

十

〇冊子本

113
205
17-17

(表題)

華嚴宗枝葉抄第十

(本奥書)

字頭

已上文永人年九月二日園城寺定田法印所勘送之也
當宗學者可存此旨欽

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(本奥書)

文永九年^申五月一日^午時於東大寺知足院草菴抄之了。
去年之曆自春至夏聊有所存之旨、歟花嚴字之法花經梅義
少々抄出之畢、自今以降其志猶未休其勤重勵之、花嚴字章
疏中就法花經第八卷并普賢經之梅義十条所類聚之也。
去年春秋去冬之比^續經章疏之要、又當年暮春孟夏之候記
録古義、今案之難答、以此勤奉增春日權現之法集、答其志
願、生現率内院之寶官、晝夜逐見佛聞法之望、朝暮預滅罪生
善之益、近自真俗有縁之群類、遠至親疏無辺之衆生、一々清
度各々引接而已。

在筆花嚴字末葉權僧正字^性

年七十一

年
月
日

昭和
年
月
調

113
函
205
号
7-7
册

P 3

(奥書)

貞觀五十九

于時 文永九年十一月廿三日、於東大寺尊勝院書寫之
了、尺文中間科又略之

花嚴末葉功内尺宗顯

(年譜) 宗性上人資料集原稿

年 月 日
昭和 年 月 調

113

函

206

号

1

册

P /

(表題)

〔華嚴肝要抄私勘文〕

〇冊子本

113
206
1

花嚴肝要抄私勘文
鼓坂

〇但こ本書ノ奥書ナシ

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

(宗性上人研究会)

113
國

207
号

1
冊

P /

(表題)

〔華嚴肝要抄〕
土

〇冊子本

113
207
1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

華嚴肝要抄第十二

(端書)

寛元四年探玄記三十講頼覚肉字性大僧都

寛元四年涉勝寺審尊肉字性大僧都

年
月
日

昭和
年
月調

5

10

15

20

25

寛文四年探玄記三十講 性 内頼覚律師

寛文四年探玄記三十講 良忠 内範兼

寛文四年探玄記三十講 藏山 内道源

寛文四年探玄記三十講 良教 内快辨

仁治二年寂勝講 頼源 内字 性 律師

嘉禄元年探玄記卅講 定慶 内字 性

天福元年清勝寺 乾成 内良禎 清眼

天福元年清勝寺 乾成 内良禎 清眼

〇但し、本書、奥書、八十一

年

月

日

昭和

年

月調

113
函
208
号
1
册

P /

〔花嚴抄出〕

○冊子本

113
208
1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

文永三年十月

花嚴抄出
肝要抄無答
論義也

大法院厚顯

○但、本書ノ奥書ナシ

年
月
日

昭和
年
月調

113
函

209
号

1
册

P /

年
月
日

昭和
年
月
調

華嚴字法花釋
淳清

字類

華嚴字法華釋

〇冊子本

113
209
1

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

(奥書)

美元四年始自正月之比、於紀洲在田郡崎山之草菰奉對明
 康房阿闍梨御房將終、順義按一部謄義功之次大疏并按中
 處々散在往々或引尺彼法花之文、或依彼經釋令經文、或澄
 沒彼經或載、或以今經文解尺、彼經文之處々文、或依是廣、仍擬
 一宗之法花、類聚之、于時七月廿三日、已刻於於部金之南
 面終其功畢、

華嚴宗清涼大師末葉、喜海法師

生年卅三

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年

月

日

昭和

年

月調

P 3

(奥書)

寛元四年七月十五日時於東大寺正藏院筑後公坊書寫之了。

志者佛法興隆、必由花結緣也、此本者梅尾義林佛房正本
依結緣志深起所望申間、以土佐公寅弘便被男借了、以此書寫
業、必由悲母成佛恩華自親、至陳有緣無緣一切靈等、皆成佛
道勝業矣。

花嚴宗大律師聖禪 生年甲午

同年八月五日酉時於東大寺鼓板住房以寫本一了。

(奥書)

弘安三年七月廿日之書寫之了。

權律師字顯

年 月 日

昭和 年 月 調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

113
函

2/0
号

4-1
册

P /

法華大田校

(表題)

〇冊子本

113
2/0
4-1

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

法華大田校第一
中上
序品

(端書)

延應元年大井房
廿講藏内
之

年
月
日

昭和
年
月
調

113
函
210
号
47
册

P 2

年
月
日

昭和
年
月調

34頁三厚大井房廿構度重る。
〇但し、本書ノ抄出ノ奥書ナシ。

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

113
函

2/0
号

4-2
册

P /

【清華大田抄】

〇冊子本

113
2/0
4-2

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

清華大田抄 第二中
序品

宗題

(端書)

建長四季大井房廿構良忠内更了

〇但之本書ノ奥書ハナシ

年

月

日

昭和

年

月調

113 函

210 号

4-3 册

P /

(表題)

法華大田抄 三

〇冊子本

113
210
4-3

法華大田抄第三

葦草翁品

宗題

〇但し、本書、奥書八十二

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

113
國
210
号
4-4
冊

P /

(表題)

法華大田抄

上上

〇冊子本

113

210

4-4

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

法華大田抄第上上 經第八卷

字題

(端書)

嘉祿四年大井房廿一宗覺寫之

年
月
日

昭和
年
月調

P 2

瑞書
奥書

昭和七年五月十九日羊蹄書寫了。

。但、本書抄出終、奥書ナシ。

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

P 1

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(表題)

法華經句用意抄

上下

〇冊子本

113

211

2

自法花卷
至四卷在之

法華經句用意抄上

天台

字題

(端書)

寶治元年八月西園寺人講宗性法印

寶治元年八月西園寺人講宗性法印

法華經句用意抄上 天台

年 月 日

昭和 年 月 調

一卷

「寛治二」成恩院卿八講、字一由智田法印、

「建長元年」陰明内女院卿八講、字一由智田法印、

「諸字」衆同、故才二十有之、

「建長五年」民部卿、家八講、字一由房、源大僧都、

「建長五年」報恩院卿八講、字一由信、兼法印、

「文保二年」金光十講、

「建長三」陰明内女院卿八講、字一由智田、
(「卷」方便品)

「寛治元年」陰明内女院卿八講、字一由智田法印、

「寛治二」西宮八講、字一由智田法印、

「建仁二年」礼拜講、寂禪答連覺同、

「寛治三年」十月坊城殿卿八講、字一由智田法印、
序

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P 3

二卷

「建長二年後鳥羽院御八講、宗一向長俊法印 辟顯品」

「寛元五年後鳥羽院御八講、宗性由長俊大僧都」

「建長元年七月坊城殿御八講、宗一向智円 二卷辟顯品」

「堂一論義也」

「正安四年後嵯峨院御八講、今曉由仲覺」

「天喜五年、寂、賴增由清朝、永曆三年、寂、行賢由源弘」

「建保五年、法、庄儼由真雲」

「建久七年、法、範覺由貞覺少僧都、壽永三年、大、快尋由定庵」

「建長三年藤三品顯氏八講、宗一向智円法印 二卷辟顯品」

「建長三年藤三品顯氏八講、宗一向智円 二卷」

「建長三年後鳥羽院御八講、宗性由經海法印」

(年譜) 宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

「寶治二年安樂光院卿八講、宗一由長俊大僧都」

「建長三年十月坊城殿卿八講、宗一由長俊法印」

「本抄第一 弘安四年後嵯峨院卿八講、宗顯内信并法印、信解品

寛之々年淨土寺八講、宗性由尊家大僧都」

(奥書)

已上迄忘二年安樂光院卿八講之時、祐性僧都考之云々、

弘安四年後嵯峨院卿八講、宗顯内信并法印即奉此疑、○下略

「建長五年長講堂卿八講、宗一由長俊法印」

「建長元年七月坊城殿卿八講、宗一由智田、二卷」

「寶治二年西人条八講、宗一由長俊大僧都」

「信解品」

年 月 日
昭和 年 月 調

「寶治二年34誓陀伽八講宗一肉智円 二卷」

「寶之々年淨土寺八講宗一肉尊家」

「建長二年後鳥羽陀伽八講宗性肉長俊法印」

三卷

「本按第一」

「寶之々年34誓陀伽八講宗一肉聖憲僧都、但就力之卷」

「疑由之肉兩方弄之畢」

(奥書)

「已上仁治二年知足院殿伽八講之時、智円法印奉之云々」

「寶治二年七月坊城殿伽八講宗一肉長俊」

「建長三年七月坊城殿伽八講宗一肉房源」

年 月 日 昭和 年 月 調

P 6

化城喻122

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

寶治二 一 知足院御入講、字一 因公去大僧都、

建長三 一 七月坊城殿御入講、字一 因房源三卷

「第四卷」

寶塔品

建治元年西園寺八講、定縁向親性、

寶治二年顯平卿八講、字一 因祐性、

寶治元年藤大納言為房八講、字一 因房源律師、

寶治四年七月坊城殿御入講、字一 因道喜四卷

（奥書）

寶治四年七月十六日於四糸生宿所對智因法師所習之趣大概在之、

同日於二条東洞院宿所記之、 字一

寶治元年大外記師尊八講、字一 因明愜、

年
月
日

昭和
年
月
調

建長元年34誓願師入講宗一由因成大僧都 本抄第六有之

廣治元年大外史師兼入講宗一由明愉僧都

廣治三一年講堂師入講宗一由尊家大僧都

清師品

廣治二年龍喜寺院師入講宗一由經海大僧都

○但云本書、抄出時、與書十二

〔清華疑肉用意抄〕

下

○冊子本

113
211
2

(表題)

清華疑肉用意抄 下 天台

自五卷
至八卷

字頭

P 17

年
月
日

昭和
年
月
調

P 8

第五卷

(端書)

寶治三年師員八講宗性一由房訴律師

寶治三年三月聖覺法印十三年遠辰十講宗一由円成大僧都

提婆品

寶治三年寅勝金剛院師八講宗一由尊家大僧都

提婆品

寶治二年成恩院師八講宗一由智円法印

提婆品

寶治二年後堀河院師八講宗一由尊家大僧都

寶治五年西人每人講宗一由尊家大僧都

寶治三年藤大納言八講宗一由智円法印

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

寶治元年師員八講宗一向房源律師五卷

仁治三年嚴勝金剛院師八講宗一向尊家僧都

寶元四年陰明門女院師八講宗五卷聖憲向內成

廣治元年師員八講宗一向房源律師

○但云本書抄出終一與書士

年
月
日

昭和
年
月
調

113
函
212
号
3-1
册

P /

〔法華第四卷抄〕

〇冊子本

113
212
3-1

(表題)

法華第四卷抄 天台抄

序題

(奥書)

于時 34 年三月十一日、以忠孝法印本於姉小路追書厚
之了、

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年
月
日

昭和
年
月調

113
國
212
号
3-2
冊

P /

法華經第五之卷抄

(表題)

〇冊子本

113
212
3-2

(年譜)

宗性上人資料集原稿

法華經第五之卷抄 天台

(端書)

字題

康和元、宝勝、慶朝 敏憲内

久安元、清勝、後管、景覺内

平治元、清勝、公辨、宗延内

年
月
日

昭和
年
月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

建永二 寺用口金馬肉 示真

寛元 寺勝、澄憲 増養肉 文治三、寺勝、澄憲、乗疑肉 日九

院 敏 示久元 示清答山 堂後肉井

庭勝 示久三 覚居山 覚心肉井

〇但、本書、抄出後、奥書ナシ。

年

月

日

昭和

年

月調

113
2/2
3-3

()

P /

法華經第七八卷抄

(表題)

〇冊子本

113
2/2
3-3

(年譜)

宗性上人資料集原稿

法華經第七八卷抄 天台

字題

(端書)

仁治三、安樂北心院 弟源由 田成管

仁治三、西林院由京自八構隆澄澄由可尊答

年 月 日

昭和 年 月 日

5

10

15

20

25

社頭八講

度喜二

澄澄肉

禪覺肉

或人云橫河澄覺

持論義也

度喜三

延豪僧正八講

萬善顯親

公縁肉

有教卿八講

仁治三印口肉

道喜澄

度喜三

大師講

岩後

弟嘉

後有河隈百口講

藏俊信却

澄藝肉

○但、本書抄出終、奥書ナシ

年

月

日

昭和

年

月

日

〔法華第四卷抄〕

○冊子本

113
213
1

〔表題〕

法華第四卷抄 通用抄外

字題

寶治元年七月坊城殿御人構彦源由字一犬僧都

寶治元年七月坊城殿御人構彦源由字一犬僧都

寶治元年蔭大納言為家八構彦一由彦源律師

年
月
日

昭和
年
月調

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

「寶治元年藤大納言八講宗性由房〔海律師〕」四卷

「寶治四年安倉院隆義法印百日忌辰八講範成由宗性」

「仁治二年後高倉院卿八講宗一由聖運僧都」

「寶治四年清水谷大納言更持八講正舜由宗一太師却」

「建長元年西宮八講宗性由尊家法印」四卷宗性

(與書)

弘治元年七月八日於東大寺尊勝院記之

通用抄外論義必同用結集之

權大僧都宗顯

年
月
日

昭和
年
月
調

(附背之集)

P

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

久不令申候、何年御事候哉

抑故僧正御房御三年明日八日、相當候、今日存ん可有

沙汰候也、則情僧一分に乙可被座敷之由、可申之旨候也、

御葦束純色碧沙可為候、為御用意申候、期御出之時候也、

恐々謹言、

六月七日

慶実

下野公御房

年
月
日

昭和
年
月
調

113

2/4

1冊

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

法華第四卷通要抄

○冊子本

113
2/4
1

(表題)

法華第四卷通要抄

字題

(端書)

廣文三年土御内院御人講範成内字一僧都

延治二年最勝金剛院隆有内良盛

寶治元年西宮八講字一内定辨大住持

年
月
日

昭和
年
月
調

P 2

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

「廣之四年五月隆義法印百日忌辰八講、乾成、肉、宗一」

「貞治二年賢信、肉」

「廣之三年西宮八講、智、肉、尊海僧都」

「西園寺八講、乾信、肉」

「廣之四年五月隆義法印百日忌辰八講、乾成、肉、宗一、大僧都」

「嘉祿三年乾信、肉、公性、延治二年坊城八講、公、緣、肉」

「廣之四年後高倉院、肉、八講、聖憲、肉、長俊、大僧都」

「廣之四年淨土寺、肉、尊家」

「建治元年西園寺八講、定、緣、肉、執性」

「廣治元年久我八講、宗一、肉、尊家、大僧都」

「廣治元年後高倉院、肉、八講、義、肉、宗一、大僧都」

「廣之三年、東勝寺、金剛院、肉、八講、宗一、肉、尊家、大僧都」

年
月
日

昭和
年
月
調

P 3

(年譜)

宗性上人資料集原稿

同年土御内院御人構、東成門内宗一僧都

寛元三年後鳥羽院御人構、山成内宗一僧都

寛元四年西人条尊家内成信

寛元三年報恩院御人構、也尊家内良應專僧都

寛元三年新能野御人構、房順内宗一僧都

延應三年藻壁内院御人構、教縁内智四

嘉祿四年久我頼兼内経四

寛元四年清水谷大納言実口内宗一

寶治二年浄土寺口家内

寛元四年西宮人構、尊家内宗一、大僧都

寛元三年五月安集心院御人構、経海内宗一

年
月
日

昭和
年
月
調

P 4

(奥書)

弘安三年七月八日、於東大寺尊勝院結集之了。
就通用抄論義隨所見勘入之了。

權大僧都宗顯

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年

月

日

昭和

年

月調

113

215

1冊

P /

法華第四卷抄

〇冊子本

113
215
1

(表題)

法華第四卷抄

過去七佛事 已設今設當說事
多宝如来 證明法華事

宗題

(端書)

建表三久我相國講之時用此難

〇題但之本表、抄出時、無書十二

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P 2 /

法花第六卷跋

表題

○冊子本

113

216

/

法花第二卷抄

天口南權甄實報

字類

①但、本書中、抽出時、與書ナシ

(年譜)

宗性上人資料集原稿

25

年

月

日

昭和

年

月調

113

217
号

1
册

P /

〔浪花第七開示抄〕

〇冊子本

113
217
1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

浪花第七開示抄
不輕神力屬累

抄

〇但し本書ノ抄出終ノ奥書ナシ

年
月
日

昭和
年
月
調

113
218
号
1
册

P /

法華經略問答

〇冊子本

113
218
1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

法華經略問答
并 彌出品以下
并 普賢經

宗題

〇但し本書、抄出時、奥書ナシ。

年
月
日

昭和
年
月調

113

218 219

号
1
册

P 2

(表題)

唯識論十卷問答抄

〇冊子本

113
219
1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

唯識論第十卷問答抄

究竟
三身

大持師字顯之

(奥書)

又示四年之月十日書寫畢

同月十三日一文畢

年
月
日

昭和
年
月
調

113

函

220

号

1

册

P /

〔三僧勝曼講問二明論義抄〕

〇冊子本

113

220

1

(表題)

三僧勝曼講問二明論義抄

宗題

(内題)

維摩會問答記

延治二年

講師大律師宗

性

年

月

日

昭和

年

月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

初日 朝座

肉着法印權大僧却公叙在表

暮座

肉着權大僧却意盛

第二日 朝座

肉着權少僧却尋性

次肉真詮大律師 興福寺 法相宗

暮座

肉着權律師公尊 興福寺 法相宗

第三日 朝座

肉着權律師宗譽 興福寺 法相宗

暮座

肉着實田大律師 興福寺 法相宗

次肉

明尋大律師 興福寺 法相宗

第四日 朝座

肉着立早俊大律師 興福寺 法相宗

次肉 專英大律師 興福寺 法相宗

暮座

肉着縁鎮大律師 興福寺 法相宗

年 月 日
昭和 年 月 調

113
220
号 / 册

P 3

第五回 朝座

次 同 俊高 大法师 某寺
同 著 威信 大法师 某寺
次 同 良教 大法师 某寺

葛座

同 著 经尊 大法师 某寺

第六回 朝座

同 著 定宗 大法师 某寺

葛座

同 著 贞贤 大法师 某寺

梅義重
聖 禮 法師

次 同 玄雅 大法师 某寺
次 同 尊大 大法师 某寺

良忠 法師

(年 譜)

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

(本奥書)

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

P 4

延應三年四月二十五日申於東大寺中隱記鈔之畢。日

未依後二會沙汰念忙要他事之間。不及清書空送款月畢。

而今三層俱終一身餘徒然之間。或隨憶念。或尋肉者妄記

燭難之詞。雖取後箇。雖憚外具聊載溝谷之趣。末學止嘲。早

紉愚答之訛認佛天垂意必為後世之良因矣。

右筆華嚴末葉沙門宗性

脚有云問答記

延應三年

講師大德宗性

初日朝座

肉者權少僧都宗胤

葛石座

肉者權律師道喜

年

月

日

昭和

年

月調

P 5

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

第二日 朝座

肉者權律師今玄

暮座

肉者大律師祐曉己講

第三日

朝座

肉者權律師田成

暮座

肉者大律師尊字

第四日

朝座

肉者權律師長俊

暮座

肉者權律師聖憲

第五日

朝座

肉者權大僧都良盛

暮座

肉者權律師靜明

第六日

朝座

肉者大律師

暮座

肉者大律師

第七日

○以下漱然自筆三カ心
於肉院內裏有御論義

諸 興福寺權別當法印田經

年

月

日

昭和

年

月調

一 番

宗性大律師答

田預大律師問

二 番

尊宗大律師答

尚田大律師問

三 番

長峯大律師答

足曉大律師問

(本奥書)

延應二年正月二十日

時於東大寺中隱記之畢

至第六

日朝座論義於北京二条堀河宿所馳筆畢、爲散後日之不

害聊記當時之答趣、定不叶解決之旨、故可思可取矣

仰願以此會區講之微功、爲善尊值遇之事因可耳

右筆花嚴末葉當講 宗性

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月 調

P 7

早井漱泉自序

幕师并寂勝会同答記

延應二年

灌師大徳 宗性

初日 朝座

由者權少僧都尋性

暮座

由者權律師公罪尊

第二日 朝座

由者親鎮大律師

暮座

由者富尹大律師

第三日 朝座

由者大律師 河隆寺

暮座

由者昇丹大律師

第四日 朝座

由者命田大律師

暮座

由者寂尊大律師

年 月 日

昭和 年 月 調

(年 譜)

宗性上人資料集原稿

P 8

5

10

15

20

25

(年譜)

宗性上人資料集原稿

第五日 朝座

次向、重弘法師

向者 權律師良尊

次向 專英大律師

暮座

向者 宗玄大律師

第六日 朝座

向者 信尊大律師

次向 興尊大律師

暮座

向者 良雅得業

次向 升英律師

(本國書)

正應二年三月十二日 野於某師寺講師房燃下記之畢

前後六日由難十七度之間、三年、福義頗不分明三十

一条、疑向、覺悟之畢、短才之身、必不慮事之間、雖似自稱聊

年 月 日

昭和 年 月 調

P 9

(年譜)

宗性上人資料集原稿

記録之九張露之身、不圖為遂三會構匠螢雪之勤、不空記
滿一期本望是偏三寶加被之力也、是非諸天擁護之故哉
未之可、可悅可幸者、明日事訖、欲歸本寺、何日再執此
五師子如素何世重宿此某師寺講房、教日經迴其踐、尤惜
後年參勤其期雖有、雖慢三會之志、遂只悲一生之漸迫、仰
願必以此會、遂構之微功、定為志尊、值遇之某因、疾

右筆華嚴末葉富構字性

法隆寺勝覺會由答記

仁治元年

講師大律師字性

初日 朝座

由著法橋經真

在表白
興福寺

暮座

由著大律師覺等 興福寺

年

月

日

昭和

年

月調

第二日 朝座

内者大法师命内 興福寺

次内編縁通法師 法隆寺

暮座

内者良賢大法师 興福寺

次内湛基法師 法隆寺

第三日 朝座

内者正雅大法师 某寺

暮座

内者顯真大法师 法隆寺

(本奥書)

写本云

仁治二年正月十一日 時已 東大寺中脰記之畢至初日暮座

滿義去年十一月十五日 時西 於法隆寺宿房馳筆畢同十六

日朝歸于本寺其後爲忙相續不遑記之然而今遂此會之

備師并爲今生之恩出之內傳内跡爲備後日之披見隨憶

年 月 日

昭和 年 月 調

5

10

15

20

25

念聊記其時之難答之趣定肯解尺之去旨筆跡亦招後昆之
誹謗者歟仰願依此會遂滿之微功答今度結縁之善因必蒙
太子聖鑒之引援速遂尊值遇之本望焉抑去十四日即有
会結願傳事之次依三會巡防任權律師畢雖雖脫三會巡防
之不打猶悲四旬年齡之已滿矣

右筆華嚴宗末葉權律師宗性

(真書)

建治三年七月十七日三會并勝鬘会上綱師講師内答如
書厚之了

當講字額

P 11

年
月
日

昭和
年
月
調

113
図

221
号

1
册

P 1

(表題)

公甫集性相卷私抄

〇冊子本

113
221
1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

公甫集性相卷私抄

傳賜畢密源
(花井)

普門院

宗顯

(奥書)

厚本云

建長七年十二月比集云

年
月
日

昭和
年
月調

正月四日書之了

於今能野部屋寫之了

定春

弘長二年後七月廿五日書之了。親尊以此抄更令圍集之。處滿義教多無之。能々可尋問之也。

今此抄者滿教房得業^福書。奉為醍醐座主御房抄之。而今能野僧正御房令取置給云云。越州成孝者申請書寫之云云。

於寫本者滿義由題無之。然而為易見。私今注問題了。干時。文永十年三月廿日此抄物。不男題令傳借之間。一日一夜雖相交他筆。如法馳筆了。不及交合之。

大活師宗顯(花押)

年
月
日

昭和
年
月
調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

(紙背又書)

賣券
○其書米字

詰却

玉瀧寺之内、政所垣内、一處名田二段并畠五段小林

曠野者

右、常陸清眼聖去、去寛喜二年取文章生遠重之借物
拾壹石伍斗畢、其後年々雖償之、其殘猶積之由、頗令
訴申到寄事、於神威令致其沙汰之間、相論強々之處、
左兵衛尉宗重入中有沙汰之間、彼借物之方、限永代沽
却、此名田二段、畠五段、小林曠野畢、御符米并寺宿
直役除之所免也、以之即取出彼本文書并清眼聖去此
借米、可懸玉瀧寺之田、其狀、自今以後、不可、以下附筆

